Volume 2. No. 28

THE NEW YORK SHIMPO

MONDAY, Jan. 1, 1912

紐育新報

第廿八號

一千九百十二年一月一日（月曜日）

Published every Saturday by THE NEW YORK SHIMPO CO.
Park Row Building
13-21 Park Row, New York City
Tel. Cortlandt 2953
[illegible] per copy $3.00 per annum
Entered as second class matter [illegible] at the Post Office at New York, N. Y., under act of March 3, 1879
KENICHI KAI Editor and Proprietor

紐育新報

年頭の辭

甲斐　健

宇宙の大に比すれば人界は之れ渺たる一彈丸黑子に過ぎず、一年三百六十五日ノを無始無終の時間空間に較ぶれば畢竟飛塵一過のみ、此間何等の喜憂を呼ぶべきものなきが如しと雖も仔細に味ひ來れば個中吾人の省察に値するもの無くんば非ず、古人も一年の計は年の始めにありとか言へり吾人今や愛讀者諸君と共に此新年を迎ふるに當り聊か所懷を述べて吾人の將來に對する覺悟如何を叙す亦無用の業に非ざらんか。

惟ふに人文の歷史は人間爭鬪の記錄なり、茫茫數千載太初より今に至る迄人間てふ社交的動物は前進後退暫時も爭鬪の步を留めず、而して此爭鬪が織り成せる文化の行程は戰爭となり革命となりて人生てふ大ドラマに陽性の活趣味を與へ、宗敎、文學藝術、哲學となりて社會に燦らんたる色彩を放ち、此放てる色彩は更に亦美觀を極めし自然の大活畫と相映じて吾人の生活に無限の慰籍と希望とを供給す、新陳代謝して步一步段一段、野を去り文に就くの傾向を有するもの之れ人界の實相にして吾人々類が迷途の旅の一里塚を越へて猶且新春の屠蘇に死を忘るゝ所以に非ずや、實にや逝きし明治四十四年も猶の如く、亦此行程を辿りて來り吾人に數多の敎訓と事業とを遺して去れり。

試みに昨年中に起りし世界の重なる事件を一瞥すれば、倫敦に於ける同盟大罷工と加州にありたる爆烈彈事件の裁判とは十九世紀以來經濟上の難問題たる資本家對勞働者問題及社會問題の研究漸次に向ふて、學者論者に多大の材料を供給し、獨佛のモロッコ事件と日本政府の財政緊縮策は現在及今後に於ける國際競爭の勝敗が單に兵備の大小に依りて決せらる可きものに非ず、只國民の實力奈何に存ずるとを證して頑迷なる軍備萬能論者の鼻柱を挫きたるは吾人の特に快とする處なり、次で來りし淸國革命軍の實質的成功は野蠻時代の殘骸たる專制政治が結局進み行く新時代の要求と背致せざるべからざる運命に在る事を說き、同時に支那國民の將來に眞個覺醒の時機を與へたるは隣邦の同族たる吾國民の遠き將來を思ふて中心慶賀すべきものたり此他墨國の爭亂、倫敦の人種會議、カーネギー平和會議、何れか社會のベターメントを意味せざる、就中日米兩國間の國交が昨年來漸次舊態に復せんとするの徴候を顯はす時に當り、西部在留同胞の永住的基礎漸やく堅からんとし中部東部同胞の新事業家續出し、結婚者增加するは吾人が殊更に喜ぶべき現象として將來に期待するもの多き所以也、斯の如く看來れば明治四十四年は社會文明の進步と、吾日本人の將來にとりて悲觀すべき惡年には非ざりき、人種問題支那問題ツラスト問題等は未決の宿題として今日以後の研究を待つ。

請ふらくば年の始めに當りて徒らに廢衰を悲傷するを休めよ、無あるが故に有あり惡あるが故に善あり戰爭あり天災の毒あるが故に平和あり、廓淸の七あるに非ずや、人を咎むるに寛に、己を責むるに嚴に、人を恨まず、人に忘られず、相共に社會の向上進步と在米同胞の實力發展とを主義として來る可き新春の生活に入らん哉。



▲　　安藤多郎

新しく硯の水もかはるなり
　君が代祝ふ歌の書きそめ

朝日影松の小琴の調べ床し
　躍る御はたに迎ふしんねん

筆かみてしばしためらふ勅題の
　歌の書初めいともかしこし

海原は仇にさはがずこけのむす
　いはほに浪の千代のさゝやき

鍬鎌はかべに列ねて注連かざり
　馬も一日を野に寢つ起きつ

かるた取る手と手重ねて胸の騷ぎ
　身のいたづらにならむとし思へば

▲紐育日本人の今昔▲

鶴山生

⊙桑田碧海、移り行く世の中の有樣を眺むると面白いやら可笑しいやら何とも彼とも云ふに言はれない感じが起る、日本では明治の始、米國では南北戰爭が收まつてから間もない頃の紐育と今日の紐育とを較べて見るそ、所謂今昔の感は又格別である餘計な前口上は此位にして置いて、

却說日本人の米國に渡來した抑々の濫觴は公務を帶びて來た者、或は難船して漂着した者は別として一千八百六十八年（明治元年）舊幕府の御雇であつた和蘭人のスーネルなるものに連れられて金鑛探堀の爲八年間の契約勞働者として桑港に到着した四十名か嚆矢である

⊙太西洋沿岸に渡來せし同胞に就ては確かな事蹟を擧ぐるとは困難であるが慶應二年日本人藝人七名を雇入れた英人興業師長崎を出發し歐洲を經て紐育に來たのが明治の初年であッたと云ふ話だ、越ゑて四年彼の岩倉大使の一行が來た時其評判を聞ひて商議に來たと云ふ實說から察すると當時既に若干の同胞が在留して居たとは事實である、以下過去四十年間[illegible]を中心とせる日本人の發展徑路を記述する便宜上五ヶ年間を一期として話して見やう

⊙明治五年（一八七二）日本帝國の領事館が紐育に設置された最初の皮切領事は富田鐵之助君で、爾來四十年間領事の交迭十六度、最後のが御承知の小豪ケッ水野幸吉君で新報などは特別船來の御愛顧を被ッたとは之亦諸君御承知の通りじやハッ、、⊙九年合衆國建國百年祭典の期をトし費府に博覽會を開催した時、吾政府は生絲新古美術品、雜貨等を出品した、之が米國に日本商品を輸出した抑々の始まりである其時政府の命令により或は個人として博覽會に關し渡來した人々の內、佐藏桃太郎、森村豐、松尾儀助、新井領一郎、鈴木東一郎、益田林二郎、伊達忠七其他の數氏であッた◎此一行の風彩と來たら珍向きミュジアム物であつたと或る古老のはなしだが、遺ッてゐる寫眞を見ると實際その通りであッたかも知れんと想像される

〔二〕

⊙明治十二年（一八七九）この年に新井領一郎君は森村、佐藤百氏と共同でフロント街に佐藤新井組を起し專ら生糸を販賣してゐた、之が即ち當市に於ける邦人商店の一番始めである、其後幾干もなくして森村君は佐藤君等と分離して第六街に森村兄弟商會を創立した、森村組の創立は即ち此時である「別項參照」

⊙同十三年橫濱正金銀行の支店が出來て足立何三郎君が主任であッた。爾來支店長の更迭か九度、今の支店長は一宮鈴太郎君、相貌堂々たる落着いた人物である

⊙此期間に設立された諸會社は松尾儀助、今戶劍二郎兩君の主宰した起立工商會社の外、三井物產會社支店扶桑商會、同伸會社、日本商會、朝吹英次君の發起した貿易商會、それから山田福井商會等で、何れも皆に日本品輸入を目的として設立された者で現森村、新井組の新井君に當時關係してゐた佐藤組を止して同伸會社の支店長となッた、右の中三井は設立後三年で閉店した

「三」

⊙當時の重なる商業家の多くは何れも米國に於ける奮鬪的の成功者でなく大抵政府に關係のある會社の代表人であッたから服裝などもシルクハットにフロック、ケ[illegible]と云ふ生[illegible]商の人[illegible]ひ[illegible]つこれでの生活を[illegible]業にしてゐたかの外國商船に乘[illegible]れて來た少數の日本人をば「海の人」と呼んで皆[illegible]對手に仕なかッた今[illegible]で見るゝ時勢と共に人間も進んで來て四民平等の風が上下を通じて吹き渡ッてゐるから在留者の仕事も[illegible]合が良いやうに見ゐる、同十六年[illegible]本では岩倉公が死なれ、露國ではアレキサンダー三世が帝位に即かれた歲、米國軍艦スワトラ、ヤンテキ、チユニカタの三艦が東洋から二十二人の同胞船員を連れて來た、此時來た人々が當市在留邦人の[illegible]會を開いた譯である、翌年同じく東洋からトラタン、オスピー、[illegible]其他の諸艦商船等續々歸航して來て其乘組員數十名の日本人を連れて來た爲同胞の數が段々と殖ゑて來た、當時渡米した人々で現今活動しつゝある人を擧ぐれば松原重榮、西村和吉、竹中[illegible]太郎、佐藤政藏、鈴木辰五郎、岡田[illegible]次、山口源次郎、山村德次郎、岩[illegible]德太郎の諸君で、山村[illegible]兩君は爾來二十九年間一日の如く米國海軍に奉職して居られる

「未完」

●紫藤商務官談

（文責在記者）

「巴奈馬運河、雑貨」

巴奈馬運河開通後の日米貿易に就て話せと云はれても之は即座で、はなし得べき事柄でない、且此ことに就ては既に諸雑誌や新聞に記載されてあるから予のなまなか談は何等の必要もない、然れども此開通後の結果に就ては見やうによりて色々意見が異なるやうであるが兎に角多方面に向つて大なる影響を來すであらう、米國の東海岸より巴奈馬をへて東洋に到るものと從來の如く蘇士を過りて東洋に到るものとは哩數の上に於て數千哩相違せるも其貨物運賃の關係は如何に成行くものか又英國人の滊船の操縦は最も巧みにして米國人の及ばざる處なるのみならず其船に乗組める船員の給料は米國船の方常に高く且其人數も常に多いのであるから是等は英米船の競爭上如何に成行くものであるか又巴奈馬運河航行の滊船より徴収する通行税は如何に決するか無税でも行かざるべし、又各鐵道會社は此パナマ運河に對して如何なる方法を以て其競爭に當るか是等各種の事情を充分に研究した後ならでは何とも結論することは出來ない、何れにしても凡ての滊船は香港か上海か又は横濱か神戸を以て其起點若くは終點となすであらう、然るに於ては從來歐洲より東洋にきたりたれる滊船は横濱を終點としたるものは或はホンコン若くはシャンハイを終點となすやうになるかも知れぬが兎に角日本各港を往來する滊船は増加するとも減少することはなかるべく、是等船舶に要する物資の需用は必ず増加するであらう、何れにしても其東洋に對する影響は悪いとはないであらうと云ふことだけはいへる併し之れと同時に日本は單に受動的に其利益を得るとのみを以て甘んずることはできない、進んで自動的に此運河を利用して貨物を招致し觀光客を誘致するの策を採らなければならぬ、之を爲すには現在の港灣設築の如き、海陸連絡の如き、公園の設備の如き、ミユヂアムの開設の如きホテルの改良増築の如き、娯樂場の設置の如き、其他何と云ひ彼と云ひ之が準備をなすべきことは十分を盡するも猶足らぬのである、殊に吾海運業者の如きは既に怠らず之が講究をなしつゝあるのは勿論のことであるが一般は大に覺悟する處がなくてはならぬ、要するに予は未だ研究中にして具体的にその開通後の影響に就て陳ぶることはできない、故に今爰に日本貿易品の一たる雑貨に就て數言を費し度い

（以下次號）

○露國の蒙古及土耳其斯担占領

●蒙古に於ける露國の活動は中清發亂以來數々報道されし所なるか斯は今や事實となりて顯はるゝに至れり十二月廿八日の北京發電は報じて曰く蒙古は明日を以て獨立を宣言し同時に土耳其斯担は支那の藩屬を脱することとなり大汗は古王となり兩國共に露國の勢力範圍に入りて其保護を受くる筈なるが露は同時に右兩國を併呑することを得へし、尙豫て露が清政府に要請して止まざりし古鐵道は久しからずして建設さるへく旅客は歐洲より三四日間にて北京に達することを得るに至らん、此大膽なる露の行動は勿論露政府或は駐支官憲の教唆に出でたるものにして日本の滿州に於ける利權は之か爲に著しき打撃を受けて危險に陥入るは必然なれば勢ひ日露露露の同盟を見るは早晩のことなるべし

○愈々占領

廿八日夕刻露都發電に曰く。古王の即位式は本日を以て擧行せらるべく。列國代表者等は個人の資格を以て臨場すべくノウオエ、ウレミヤ紙は曰く。古の獨立かは永遠の獨立にして支那の將來が如何に成行くとも。古は其舊時に復るべからず露國は之を奪掠することを辭せずして其獨立と自活とを保護するなり云々

○日本政府非干渉に決す

●廿八日の東京發電に由れば吾政府の對清政策に關し去る廿八日閣員は諸元老と共に閣議を開きたるか文武の間に大激論ありたる末非干渉に決したりと稱して朝日其他都下の諸新聞紙は何れも該問題に對する當野の深憂を表し居れり、諸元老内閣は共に袁世凱、唐紹怡は表面滿朝の維持を表榜し心私かに革軍に同情し居ることを遺憾とし且支那共和國の成立か吾國民の思想上に不良なる感化を與へんことを患ひ居るもの、如し

○清朝覆滅近し

支那の政体を立憲帝政、共和政何れかに決する爲全國代議員の大會議を召集すべきことは官革兩代表者の合意したる處なるか袁は其以前朝廷の諒許を受くるの要あることを唐に打電せり、皇太后は各親王と會議を遂げ南北分離說の如きことに一縷の望を置かんよりも寧ろ皇位の放擲を可とし其旨を袁に告げたりと傳へらる、袁の眞意は依然として立憲帝政にあるも一の、如く彼にして若し外債の目的を達し得ば其訓練せる旗下を以て容易に革軍を征服すべしとの確信を有するも只股肱と頼みし唐の變心を遺憾としかつ今は革軍か彼の提議に同ずるの時なりと信じ居れり

新春立言

人間は五十以後

本田増次郎

明治新日本の行路は夫れ人間一生の經驗に似たるかな。三十而立は日清戦役によりて國民自覺の統一せるなり、四十而不惑は日露兵爭の結果として世界に於ける日出國の地位の定まれる也、五十而知天命の進境に入るは今より數年の後ならざるべからず。未だ此境に達せざるが故に外動もすれば列國の猜疑非難を招ぎ、内財政の困難風教の頽敗あり、南守北進説あり、北守南進説あり、南北併進論もあれば大八洲退嬰策もあり、軍備中止絶對平和を唱ふる者あれば社會主義無政府的暴擧の極端に走るもあるなり。而して我邦を安心立命の樂土たらしむるは正に吾人個々の努力に頼る事にて、五十六十の歳を重ねて猶は天命を悟らざる愚物の世に存するを忘るべからず。雜駁多様の中に人心の調和を得て悠揚迫らざる大國民的氣魄養成せられ、米清兩國などに係る重大の懸案は一切滿足に解決を告げ、東亞の盟主新文明の驍將として世界の列強と世界の大事を共にする腦力、財力、兵力を蓄ふるには、明治五十年までに完成すべき日本國民の要務なり。人間は五十歳以後にして始めて眞に事理を解し事業を大成し得べきもの（天才は勿論例外として）こは古今東西の學説俗見一致して疑を容れざる處、人生五十にして廢物となるべきものに非ず、五十以後こそ大いに活動の時期なりとす、知命以後の壽を長からしめんには健康の維持に勉めざるべからず、而して健康長壽の秘訣は成るべく多量の酸素を體内に蓄ふるに在る事は彼のペッテンコーフェルが睡眠の必要を酸素の不足より生ずるとせる大發見にて證明せられたり、新鮮の大氣中に眠るの必要も、唱歌演説などの時呼吸法に熟せざる者が過度の疲勞を感ずるも、低地の住人が急に高處に移りて精神興奮し暫らく安眠を得ざるも皆此理を以て説明し得べし。國民財力の窮乏は國家の酸素十分に供給せられざる也、一二の戦勝に依りて忽ち大國民となり濟せりと自負し、氣驕り神倦みて進取の雄圖なきは、眼界を千仞の高きより開放して蹶起勵精するを要する所以也。予が此新年を迎ふる感は人生五十餘す所幾何もなしとの悲觀にならず、五十以後の大飛躍大活動に向つて猛進努力早熟早老の悔を後世に防がんと自ら勵まし亦國家民人の爲めに祈るを知るのみ。



高峯讓吉氏

母國財政の現狀と在米同胞

横濱正金銀行支店長　一宮鈴太郎

山本藏相が日本は破産に瀕して居ると演説したとの報が去る十一月廿四日の紐育ヘラルドに掲載され更に倫敦に轉電せられて以來日本外債の相場は下落した、勿論之は甚しく悲觀に過ぎたる誤報であるとは本年度の豫算に減債基金五千万圓の計上あるによりても明かである、乍併倫敦イコノミストが十二月二日の誌上に日本の財政及歳計と云ふ題で詳しく論じて居る所を見ても日本の財政に付ては世人が較々不安の念を抱いて居ることは疑いない、即ち破産に瀕するといふことが餘りに酷評に失する嫌はあつても毎年七千万圓の外債利子を支拂はねばならぬ、一方に輸出入の狀態は往々輸入超過を見るの有様なりとすれば此際根本的救濟の方法を立つるの必要がある、例へば軍備の擴張を中止し繰延べ得べき政府事業は出來得る丈延期し總ての行政機關をビズネスライキに處理して成るべく民力の休養に努め産業の發達を促がし少なくとも外債利子七千万圓は輸出超過を以て補い得る程度に進まねばならぬ、云ふ迄もなく日露戦爭は無理な戦爭であつたが當時國家が如斯大戦爭をして居るのであるから擧國一致の實を擧げねばならぬといふので勤儉貯蓄を奬勵したことがある成程其考は頗る良つたに異いないが其實行に於て大いなる錯りを爲した、勤儉貯蓄は必要であるけれども之を奬勵するのみで同時に進取的のアイデヤを鼓舞せしめないと結果は兎角萎縮するのみである、詰まり不生産的若しくは不必要の失費を省いて直接間接に生産的であるか或は事業の遂行上必要なる經費は更に惜むとなく費さねばならぬ、手近い例をいふと商業社會で經費節減を爲す場合に必要な電信料を惜めば商機を失する恐れがあると同じく國家の財政を整理案排するに於ても緩急取捨に充分の注意を拂はねばならぬ

鐵道國有の爲に公債が發行せられ次て五分利付内地公債借替の結果不自然なる遊金過多、物價騰騰の情況を呈し延ひて輸入超過を現出した、これにも拘はらず收入以上の奢侈に流れ遣繰算段で前途の目當ても確立せず浮々と泳きのある狀態に徨ふて居る個人も少なからぬやうであるが是等も國民財政の現況と同じく早晩覺醒を要する時機が到來すると思ふ而して其時機の到來を可成早からしむれば夫れだけ國家の仕合であらう米國に在る吾同胞の多くは日本の税金を拂はず米國の課税は受けずして生命財産の安全なる保護を受けて居る、如斯利益ある位置に立つて居る者は世界何れの國民にもあるまい警察、衛生其他一般行政上の利益を享有しながら其代償を支拂はずして濟むといふのは少々虫の宜さ過ぎる話である、之に反して故國に在る同胞は老幼を問はず一人に付平均一ヶ年十四圓九十錢を納めて居る、之は日本の現狀に比して頗る重き負擔と云はなければならぬ、若し在米同胞にして心の底から此事を考へたならば決して御互が優悠逸樂に其日々を過ごすべき時でないと云ふことを覺るであらう、一人の富の増加は夫れ丈國家の富を殖すのであるから其積りで爰一番の奮發が肝要である



村井保固氏

新年所感

三井物産會社支店長　瀨古孝之助

日露の戦役は日本をして世界列強の一たらしめ吾等日本人の位置亦一段の高きを疊ふるに至り然れども顧みて吾邦現今の狀態を鑑みれば實に寒心に堪へざるものあり

此頃故國よりの報導に依れば現内閣の財政方針は極端なる緊縮策を採り陸海軍備の擴張、鐵道廣軌改築、大博覽會、電話擴張、港灣改築等比較的大事業と認むべき者は全部削除することに決したりといふ、軍備に關しては爰に云はず只財政の困難が國運の發展に缺くべからざる各種事業の繰延を餘儀なくせしむるに至つては遺憾此上もなき處にして當局者の苦衷察するに餘りあり殊に戦勝により勃發されたる國民の虚榮心は一般の生活費を上騰せしめ人民負擔額の過重と相待つて不景氣の聲は到る所に叫ばる、若し此情態にして沼々底止する所なくんば日本が一等國としての位置を持續せんこと甚だ難しと云はざるべからず予は我國民が内善く勤儉の美風を奬勵して産業の發達に努め外好く商業貿易の隆盛を圖りて國富の充實を致さんことを望むや切也新年に際して所感を陳ぶること爾り

在留同胞と發明

高峯讓吉

個人と國家とを問はず、競爭激甚なる現代に在りて、最も缺く可らざるは、進歩を欲するの精神なり、此精神あれば興り、是なければ亡ぶ、吾日本國今や世界列强の[illegible]に加はりたりと雖も、更に一歩を進め、獨り軍事のみならず、教育、學術、商工業等各般の進歩を試みざれば、終に列强競爭の落伍者とならむ、

此進歩を欲するの精神は殊に發明の上に顯はる、發明なき國は進歩なき國なり、日本は歐米[illegible]進國と比すれば此點に於て一籌を輸す、然れども是れ決して吾が日本人が發明の才を缺ける爲に非ずして、科學の普及してより日猶淺きが爲のみ、予は近來邦人一般に發明の志を抱く者多きを加へたるを見て、竊に喜びつゝあり、近世の發明は多く科學の智識を基礎とし、之に經驗を重ねて成りし者とす、吾在紐日本人にも野口博士の如きは、科學的發明を以て名を世界に知らるゝ一人にして、頃者又或特殊の病菌培養、病症檢定上に新發見ありたるは、人意を强ふするに足る、然れども發明は必ずしも科學的素養を要せず、常識を以て著名の發明を爲せる者あり、殊に實用的發明に於て然り、所謂必要は發明の母にして、注意すれば目前に幾多の材料あり、例へばジレット安全剃刀、靴紐の鐶金、万年筆の如き微々たる物品に過ぎざるも、克く必要を充せば之に由て其發明者は一代の富を爲し得、予が近隣に壯麗なる邸宅を構へ居る者あり、此人は手袋止めのボタンを發明して巨万の富を作りしなりと云ふ、此等は專門の智識なくとも常識の運用に由て成就する事なり、或邦人は曾て双手に食器を持して戸を開く事の不便を感じ、遂に足を以て自動的に開閉する戸の裝置を考付きたり、不便欠乏より成る思付は何人も心掛あれば其職業を執る傍に考案し得べし、從來日本人は眞似上手なれど創意發明の才なしとの評あり然れども予は信ず、眞似の上手なる者は發明も上手なり、器用にして思付のよき國民は志だにあれば、必ず發明に成功すべし、近來予の許に來りて其發明品を呈示する青年甚だ多し、或者は日夕勞働に從ひ、或者は教育乏しきに拘らず、假令大發明には非るも進で發明をなす、其志や愛すべし、吾在紐邦人約四千、其大部分は家事勞働に從事すとも妨げず、[illegible]年少の時勞苦するは大なる利益なり若し各人が進歩的精神を抱き發明をなさん事を志せば、數年ならずして必ず今日の狀態は一新せむ、單調にして慰安に乏しき勞役が、青年の墮落を誘ふ恐ありとせば、奮然として發明に精神を傾注するは、其成否如何に拘らず、極めて有益の結果を來さむ、發明は必ずしも機械物品に限らず、各人其執る處の職業に就て一として改良進歩の餘地なき者あらず職務の餘暇、爰に思を馳せ、自己の運命と共に國運を開拓するの志を立てずや


故森村豊氏


ドクトル高見豊彦氏

共濟會に就て

日本人共濟會長　高見豊彦

私が新年に際しての所感は外にない只在留同胞諸君の協賛を仰ひで成立して居る共濟會に就て紐育を中心として在留せらるゝ紳士諸君並に會員諸君に御頼みが仕度のである●

御承知の通り共濟會は今度法人團体に改むると共にレキシングトン街に一軒の家屋を借受けて引移り新事業としてエムプロイメントビウローを開始した、之は一般在留同胞の便利を計ると同時に外人に向つて吾共濟會の存在が確然たるものであると云ふことを示す爲め將來に對する本會の目的を遂行する第一手段として實行したものであります

從來數々御話したやうに此太西洋沿岸に約五六千の同胞が在留して居ながら組織なく統一なき社會の下にあるといふのは實に遺憾至極であつて同時に御互の利益上決して望ましきとでない、依て共々に奮發して爰に有力なる日本人の團体を作り、其團体の力を以て吾同胞の利害問題に關しては、當局者にアッピルするとか又は白人の各種團体と氣脈を通じ、彼等の聲援に據つて目的を遂げるといふやうにしたなれば在留者發展の爲に頗る良好の結果を齎らすであらうといふのが吾ゝの希望で、今日迄實行し來つた慈善的事業の如きは單に其目的の一部に過ぎないのである乍併吾々の目的が如何に立派でも第一に會員相互の意志が疎通せず、熱心が足らず、世間の同情を引くに足るべき施設をなさなかつたなれば、本會は何時迄經つても其發達を見るとはできない、昔毛利元就が其子供に遺言した通り、一本の矢は折るゝとが出來ても束ねた矢は折るとが出來ないと同樣に、吾々が一致協力して熱心事に當れば會の目的を貫くとは甚だ難事ではないと思ふ、だうか會員諸君は其御積りで、相互の親睦を圖るは勿論、本會の施設に就て不滿の點があれば遠慮なく責任を以て御忠告あるやうに願い度い、又他に新たなる事業で本會の爲になるといふやうな者があれば之亦遠慮なく其意見を述べられ度いのであります

夫れから在留同胞の共同慰籍を得る處として一の大なる倶樂部を作るとも非常に切要であると思ふ、申す迄もなく人間は慰めが無くては一日も愉快に働きの出來るものではない、此點に就て甚だしく不便の地位にある在留同胞が不滿の極、身の方向を誤まるに至つた例は澤山ある、今回本會が家屋を借受けて引移つたといふのも實は同胞の便利を圖る傍ら將來の倶樂部設立に關して幾分の經驗を積み度い考から實行した次第であります、紳士貴婦人諸君並に一般在留同胞諸君は本會の趣旨目的を諒せられて充分の同情と聲援とを賜らんことを希望する次第であります

森村組

卓郎

森村組と云へば誰知らぬものはない、其組織の宏大なこと、堅實なこと、資本の豐富なこと、信用の廣いこと、營業振りの目覺ましいこと、數へ來れば實に天下の偉觀で、此世界一大都の紐育に日米貿易を一人で背負つて立つの概を示して居る所は全く吾國民の誇りとす可きものである、此日米貿易界の覇王森村組なるものが如何にして創設されたか、如何なる組織の下に成つて居るか、其經營に當つて居る人物、其他凡てに亘つて記述するは到底一朝一夕の事業でない依て吾輩は自分が直接に調査した所の緒端を述べやうと思ふ。若し此拙なき筆が假令幾許でも讀者に感興を與へ、又後進實業家の參考ともなれば幸である

緒端

開國佐幕開國攘夷と天下は麻の如くに亂れて國民は岐路に迷ふて居る



安藤長十郎氏

中に横濱は愈々開港となつた、時は西暦一千八百五拾九年我國の安政六年八月で、今より丁度五十三年前の事である。其當時松平家の家老に桑名登といふ人があつた、此人は蘭學を學んで居たので夙に海外の事情にも通じ故福澤先生とは別懇の間柄で開國主義を奉じて居た、其桑名家に入する商人に一人の痩せこけた男が居て桑名氏が開國主義者の福澤、坪内早崎なとゝ盛んに天下の形勢や海外の事情を論評するのを聞ひて樂しみにして居た。そして此男は商賣の序に當時横濱に居た米國商人のペンリユーの宅に通辯の喜三郎なる人と一所に行つて色々米國の話を聞ひて考へ込んでゐたが、或時のことペンリユーが日本の小判一分銀を頻りに函に詰めてゐるのを見て、夫れは一体どうするのだと聞くと、日本は貿易が進まないから何も買ふ物がなくて正金を持つて行くより外に致方がない、夫れに日本の金は割合が餘程安くして小判一兩が銀の一圓半で買へるから儲利益であると答へた、そこで此男は大に考へ込んでイヤこれや大變だ、船の出る度にコンナに正金を持つて行かれては鑛山からイクラ掘り出しても追付かない、何とかして日本の金を取返す工夫はないかと桑名、福澤其他外國の事情に詳しい人々に尋ねて見ると、日本は到底此儘にしてゐては衰へて仕舞つて印度見たやうになるだらう、何うしても四民一團となつて知識を世界に求め富國強兵を計らねばならぬ、そうして其取られた金を取返すには商人が外國貿易と云ふものを盛んにするにあると云ふ、之を聞いた商人は貴君方は武士だから強兵の方を御遣んなさい、私は商人ですから富國の方をやりませうと云つて、愈々外國貿易を遣ることに決心した、處が可憐小賣商人其日暮らしの男に資本も信用もある筈がない、偶々人に相談をして見ると世間は冷笑を以て迎へるといふ有様、心は矢竹にはやッても如何するとも出來ない、其上に彼は無學であるから外國貿易をするのに最も大切な外國語を知らない、學び度ても一家を支へて商賣に急しい彼は只煩悶するのみであつた乍併窮すれば通ず自ら迪すとやらで、彼は百方苦心の末、小僧奉公に遣つて居た十三歳の弟を呼び戻して福澤先生に頼み先生の世話で或る所に學僕に仕込ませ傍ら英語の勉強をさせることにした、處が弟は三年間辛抱の後、時間が無くて充分に勉強が出來ないから福澤塾に入れて呉れと云ふ、仕方がなしから一家の暮らし向を切詰めた上にも切詰めて毎月四圓の學費を仕送ることにしたが其苦心慘憺は中々凡人の堪へ得る所ではなかつた、悪戰苦闘の甲斐はあつて兄貴の商賣も段々よくなり弟の學問も上達した、當時渺たる素町人朝夕粥を啜るも猶且つ四圓の金に窮した痩せ男は誰あらう今の日本財界の雄日米貿易界の覇者として天下の重望を負へる森村市左エ門君其人、他人の靴を磨き汚物の掃除までして數年の苦學を忍んだ奮闘兒は死して猶森村組の中心勢力となり數千の雇人を支配しつゝある故森村豊君其人である

間もなく豊氏は卒業し塾の助教をやつて居たが其以前に市左エ門氏は内地商賣に數千圓の損をしたから亦小さな處に引移つて革靴と洋服の商賣をやつて居た、それから程經て塾の故小幡篤次郎氏の勧めで豊氏を亞米利加にやることにしたが、旅費が充分にない、止むを得ず自分の古服を直して着せたり何かして漸く渡米さした、當時の同行者六七名で新井領一郎君も其内の一人であつた（未完）



北村福松氏

半世紀の今昔

丈兒

昨今米國の大問題と云へば先づ指を人種問題に屈せざるを得ないだらう猶太人の旅行券問題、西部に於ける日本人問題、又南部に於ける黒人問題と云ふ様に人種問題に就ては米國人は中々頭を痛めて居る。半世紀以前の米國も矢張り人種問題の爲めに米國人は非常の騒擾をして遂には内亂まで醸成したことは誰れも知る所である。尤も其當時は之を今日の如く人種問題とは云はなくて人道問題と云ッた。半世紀以前米國北部諸州に於ては州民各自に追々黒人を解放して殆ど奴隷と云ふものが其跡を絶つた、之に反して南部諸州一帶は未だ奴隷を所有して居つた而己ならず盛んに其輸入を行つて居た南部の奴隷所有主中には屢々黒奴を逆待した者があつたのと、又北部諸州では黒人を自由民として取扱ふことが黒奴の耳に入つたから南部より

（以下七面に續く）

ブルックリン・ブリッヂ

馬塲生

日本に居た時ブルックリン橋の事を聞いて蓋し東京の永代橋の様なものだらうと思ッた。[illegible]の窮巷陋巷から他の窮巷陋街に通ずる塲末の橋だらうと思ッた。處が紐育に來て是はニユーヨークの中心に位して毎日十万人の人が通行すると云ふ實況を見ては少なからず驚いた。

足も空にひたすら忙しげに走るは年の暮許りだと日本に居た時は呑氣なものであッた、紐育の年中足も空の有様には又興を醒ました、殊にブルックリン橋詰の夕暮れ家路を急ぐ群衆を見ては目も眩む許りに覺えた、是丈の人が毎日何を爲てゐるのかと思ふと其仕事の大さが計り知られぬ爲に心も眩む樣に思はれた。

未だ永代橋の樣なものだらうと思ッてゐた昔し、ある霜白き夜、深川からかゝる途中水に映つる月を眺めて橋の上に佇んでゐると、深川の兄イさんと云ッた風な男が橋のたもとから二上り新内を流して來た、其聲が冴えて月の雫も氷り天地も息をひそめて其歌を聞いてゐるかと思はれた時、僕は隅田のほとりに住してゐる江戸ッ子趣味はあはれの深いものだと感じた。

これも其頃ロングフエローの「橋」と云ふ詩を讀んだ、其中に「橋の上の眞夜中頃、寺院の後より出づる月、波に碎くる月の光、波渡場に沿うて滿ち來る潮、其潮の湧く如く、我胸に湧く感慨、我眼にみち來る涙、嗚呼幾度かわれ、此潮流に乗つて遠き太洋に浮び出ん事を願ひしぞ」とある、此詩は何處の橋を吟つたのか知らなかつたが、此詩を讀むと東京の永代、次いでは紐育のブルックリン橋を想ひ出さずには居られなかつた。

其頃は永代は木であつた、ブルックリン橋は鐵である、然し其差は豈に木と鐵のみならんやで、ブルックリン、ブリッヂの上で二上り新内はだうも面白くない、又ロングフエーロの詩の樣な感興を起すには此電車の響が餘りに八ケ間敷い、ブルックリン橋が深川にあるのだと思つたのは僕の間違であッた。

然し、此處にも亦捨て難き景色のないでもない、夕陽西に沒する時、ニユーヨーク側の高層建築物は恰も小山の樣に見へる、水の上に響く滊笛は勇ましく聽へる、家に歸る人々の顏は樂しげに見へ、電車の響も活動の聲だと思へば、其中に趣味がある。金鞍玉馬の才子佳人を見るときは、我知らず「天津橋下陽春水。天津橋上繁華子。」と云ふ古詩を思ひ出す、日本では擣衣の音のみに詩趣があると思つて居たのに、こゝでは鐵槌の響、タキシの響にも詩趣があると思ふ樣になる、住めば都と云ふが、東京に居た時は永代橋の上に立つて品川沖から歸つて來る漁船、水に映つる兩岸の燈を眺めるのが樂しみであつたが、今はブルックリン橋から、夕暮の景色、立ち昇る白煙を眺めて少なからず樂しく思ふ、少しく長く紐育に居た日本人は、例令日本に歸つて英語を話す事は忘れて終ッても、ブルックリン橋のみは時々夢に見る事であらう。

◎多大なる望を年と倶に新なるべき新報の將來に屬して

筆に御して北米の野に
さすらへる朋[illegible]けよ友慰めよ

○　宵天

初空や海鳥廻ぐる自由像
四首忘れ手製の歌留多九十六
三千里祖國を拜す初日の出
遺羽子の夢は破れて除夜の笛
思郷の念暖爐に燃ゆる今朝の春
墨痕に舊交懷ふ年始狀
大服にまじる我流を笑ふ妹
初鷄は官舍より聞こゆ新領土
雲に及ぶ凧のうなりや四方拜
拜誦す松上の鶴一幅

○　壽草

四條派の鶴呼べ松の初日の出

○　玉醉

句に凝りて祝詞千句や年始狀
年玉の酒一樽や御代の春
革命の新政律や筆はじめ

○　ばなゝ

氣を負ふて吐く反古歌や今朝の春
放浪の月日忘れんはるの歌
紫雪野を蓋へば吾が句紫に
鳥の羽に寒さは讓れ樹々の色

○

昇る日は薄紫の雲を出でゝ
去年と今年の色を分ちぬ

ばなゝ

故郷の春に背きて七歳や
八歳の今は歌に過ごして

寒月の最中過ぎりし鳥の影に
歌幸ありや無しやを思ふ

○　宵天

「歸り來ませ」文に一輪霜草
七歳母とわれを待つ人

醒めたるか醉へるか我、我を不知
年頭の辭に年數へ見る

恭賀新年の紙片が飛ぶ西に東に
名利の風に尾花の人よ

新なる年を迎へて新たなる
歌を詩ねん旅より旅へ

半世紀の今昔

（第五面より續く）

北部へ逃走する者が追々多くなつて來た。處が其當時は各州の政治が今日に比して格段に獨立の制度を有して居つたから、一旦自由州へ逃げ込んだものは之を捜索して連れ戻すことが不可能であつた。夫等の黑奴は自由民となつた、同時に同種族の薄命を見るに忍びずして、南部の奴隷所有主が黑人虐待の有樣を北部州民に訴へた、故に先づ最も憐れを感じ易き基督教徒婦人が之を聞いて遂にこの惡魔を神の御手に依て救はねばならぬといふことになつて遂にはストー女史をしてアンクル•トムス•キャビンの大著を成さしめた。或る人は南北戰爭の動機は全くこの著書に在りとまで云ふ程にこの著書は奴隷解放の運動を理想化した、折節政府には米國絶代の大統領リンコルン氏が在つて奴隷解放を畢世の事業として起つた、氏か生ひ立ちから考へても彼等は必ず弱者及貧民の身方に成る樣に出來て居つた、殊に氏か青年の頃商賣上の事に就きて屢々南部へ行きて奴隷市場の慘狀を實見して深く印象を留めたのが氏の晩年に於ける奴隷解放の義心を鼓舞した原因である、米國人は揚言して曰く天下に義戰なし、されど義戰あり、南北戰爭是なりと、然り予も又其の如き義戰を過去に有した米國人の誇張を喜ぶに堪へぬ一人である、然し其義戰の名譽は北部諸洲のみ負ふべきもので南部諸洲は寧ろ之を以て恥辱を紀念すべきで有らうか、將又北部諸洲も南部諸洲の國民道德には夫れ程の差異が有つたゞらうか、（續く）

雜報

●當市に於ける新渡戸博士　同博士は去る廿四日當地を見舞はれホテルテーンに投宿、午后はハアバーフォドカレヂ總長シャープレス博士と共にワイ、エム、シー、エー、にて一場の演說を試みられ尚一昨廿六日午后八時半亞日本人會の懇請を容れて同會長近藤氏宅にて在留同胞の爲大要別紙記載（追て掲載）の如き講演ありたるが當夜は幸にもニューヨークより來遊中の森村組手塚國一氏、臺灣總督府技師東郷實氏、博士嗣子義夫氏等も列席ありて、一同熱心に博士の講演を傾聽したり、右了りて種々興味深き座談に移り二十八年前博士が笈を負ふて留學せられたる頃の奇談など續出し和氣靄々の裡に散會したるは午后十一時頃なりし、博士は二十八日午后二時の發車にて費府に向はれたり（ア市通信）

●鶴志家村松甲陽氏　は病氣全快の紀念として金二弗を共濟會に寄附したり感ずべきことなり

●東洋評論の一月號　は來る二日に發刊せらるべく本田氏の「タフト氏の極東政策の外高峰博士の「在米日本人觀」植村正久氏の「日本宗教の將來」等時評と共に趣味ある記事現はるべしと

●馬場勇吉氏の訃音　愛媛縣人にてニューヨーク大學々生なる同氏は本年六月卒業の筈なりしが去る廿三日病を以て逝けり、哀悼の情に堪ねず

●遠藤敏氏　早稻田出身の同氏は日露戰爭中博文館の坪谷氏を輔けて戰爭實記の編纂に從事しその後渡米出版業の研究中なりしが去る卅日當地出發歐洲經由歸朝の途に就けり右に付知友諸氏は鴨井氏宅にて盛んなる別宴を催したり

●本紙愛讀者の新年宴會　は來る七日（日曜日）河添旅館に於て催はさるべく會費ワンダラ、エンド、五拾仙、勝部の都合あれば前日迄に申込まれたしと、隱し藝の舞臺は六日に催はさるべき有志家の意匠を凝らしたるものを諸氏の厚意によりその儘借受くることになりたる次第なれば愛讀者諸君は勝手に飛込んで何か遣つてもよい譯なり、尚別項廣告欄にある如く六日（土曜日）の有志新年宴會にて素人芝居（一組三人以上）の懸賞募集あり、一等拾五弗、一等五弗、うまくやれば新年の費用は薩摩の守となる次第なり

●往來及集會

▲農商務省技師有働良夫氏は此程歐洲より着紐ワシントン、テキサスを視察の後地洋丸にて歸朝の筈　▲南満鐵道の谷直諒氏は昨日渡歐　▲大阪電燈會社の森朴紀氏、臺灣總督府の中川、深川氏等は此程着紐　▲スケチクタデーに電氣事業研究中なりし加茂工學士は來る三日出發歸朝すべし、志智宇三郎氏は二日出發歸朝すべし　▲日本クラブにては去る卅一日除夜會を開けり何本日は會員の新年宴會を催ほす筈　▲森村組の新年宴會は本日料亭若松に於て、茂木桃井組のは河添に於て催ほさるべし　▲共濟會の重役諸氏は去る三十日忘年宴會を催ほしたり　▲高見ドクタは去る二十四日一宮、瀬古、太田、高木諸氏夫妻並に紫藤商務官等を招待して忘年の宴を張れり

⊙長廣舌　毎年クリスマスが濟むとだうも今年は空らッきし駄目でしたと、ボシながら家に歸つて舌を出すのは日本商人の癖だが、今年も其通りで何れも「イケマセンデシタネー」と吐かすが實際はたんと儲かつたのが餘程居る、近藤、福嶋◎竹田◎片桐諸店は無論のこと香西■雄君などはオッたまげる程儲けたさうで問屋などは可成勘定を其儘に仕といて後注文を勸める程の大景氣であつたといふ話じや◎不幸にして失敗した人は先生の所へ金借りに行き給へ直ぐに貸して呉れる

●社告　本號は新年廣告の都合により諸名士の玉稿を全部掲載する能はず、かつ鶴山生の「米國政界及經濟界の名士」並「紐育の市制」紅帽子の「ジョダン博士と語る」記者の「謝讀者」等を次號に繰越すの止むなきに至りしは記者の大ひに遺憾とする所なり、全面の体裁自ら作りて自ら意に充たざる所多きは記者自身の不肖と年末に際し雜事に忙殺されつゝ編輯したるが爲なり、讀者諸君の寬容を祈る、尚新年號は餘分に印刷しあれば御希望の御方は申込まれたし

●新朝顔

「エヴァンジエリンの一節」

天涯 譯

はしがき

クリスマスを眼前に、商賈往來に繁忙の今日拙文の風韻ちと存外なれど御承諾に何か書けと甲斐兄より再三の御催促もだし難く、聊か寸暇に筆を走せて

第二節のうち

廊下を隔てゝ向ふの間には久しぶりに再會せる年若のベーシル（戀人の父）と我が道づれの牧師フエリシアンは互ひにうち解けて今昔の物語りに餘念なかりき●

あはれエヴァンヂエリンは傍らに悄然として之れをうち聽き居りぬ。向ふの間にて笑ひさゞめき、うち鳴らす提琴の音も何とやらむ我が戀しきふるさとの渚に寄する波の音の如くきこゆ、過ぎにし昔の夢今更の如く想ひ出されて、懷しさと悲しさに堪ねがたく遂に乙女は歩を忍ばして戸外に迷ひ出でぬ●

ア、見渡せば四邊の夜景色の美しさよ、徐々として上ぼり來れる月は其銀色の光を薄黑き森のいたゞきに浴びせつ、樹の間を漏るゝ餘光はキラ／＼とかゞやきて小川に金波をたゝへぬ●

やがて見る／＼皎々と照り渡りて四邊は宛ら眞晝の如く其狀恰も愛に充ち給へる天帝より憂重き我身に一道の光明を與へたまふらむが如し、見渡せば我身のあたりには數限りなき美はしき馨り我身を掩ふて我を慰むるが如し、されど憂ある身には开を愛でんやうもなく、言ひ得ぬ悲しみ充ちて徒らに夜露の如く重り行くのみ●

乙女は何と思ひけむ、除ろに歩を運はせつ、大空より情を籠めて靜かに見そなはす月に送られフラ／＼と野原に迷ひ出でぬ●

ひろ／＼とせる四邊は寂漠として聲なく、銀色に霞める端は茫乎として中空に懸り、ピカリ／＼と飛びかふほたる、無數に光りて我を遮りぬ仰げば空は一面無限の星きらめき其美しさ言はん方なし、星とほたるに暫し無心に彷徨りし乙女も、軈て思ひに堪ねざりけむ、やほら身を倒して聲を惜まず泣き沈みぬ●

「あゝ我が君今いづこに在す、さるをへは未だ遠くは行きまさじ、さるを今相見むことの叶はざるはかなさよ、呼べば應へむ筈なるに、情けなや君の影だに見む由もなし、昨日まで君の往き來し給ひし此青原、けふは[illegible]、君のしば／＼家路に歸るさ憩ひ給ひし此柏の樹の下かげ、今はさびれて訪ふ人なし、あゝ君はさぞかし妾を念ふこと數ゝ此下かげに冷たき夢を結び給ひしなるべしア、戀人、今は御身を抱擁せむ由もなし●

無心の夜鳥もあはれの乙女に感じけむ、風に冴たる横笛の如く傍への森より森へと傳はりて、やゝて微かになり行きつ●靜かに佇てる樫の樹も何感じけむ小聲もて「時を待て」とつぶやきぬ

月は照り渡りて廣漠たる野原の一隅より微かに聞ゆるは歎息の音のみ

成功者諸氏

●大西洋沿岸の日本人を代表せる

高見豊彦氏 肥後熊本の人、苦學十有八年ラフエット、コロンビヤ兩大學に學び後コーネル大學を卒へて醫學士の學位を受く、斯業に從事すること僅かに數年ならざるに同人の患者其名聲を聞きて來り治を乞ふもの未明より未明に及ぶ、資性温厚、公共心に富み又私かに資を給して數多の苦學生を助く現に日本共濟會長たり年三十九

近藤佐重郎氏 埼玉縣の人千八百九十六年山中天野組の代表者として始めて美術雜貨店を亞市に開き千九百年に至りて獨立自營更に近藤商會を創立し苦心慘憺以て今日の成功を贏ち得たり爲人敦厚贊實、頭腦明晰、衒氣を藏せざるを以て君の特色とす現に日本協會亞市ビジネスリーグ等の會員にして亞市日本人會々長たり蓋し君の如きは太西洋沿岸同胞實業家の摸範的人物といふへし

北村福松氏 一藝人より身を起して在米二十年今や富巨万を積む米國數万の劇塲キタムラ組の名を知らざるものなし 毎に後進有爲の實業家に資を給して其業を爲さしむ竹田商會か名義變更後今日の盛大を致せるもの其一なり資性輕快年六十

附言此他紐育の野口、茂木、福嶋牛窪、竹田、佐藤、ボストンの松木諸氏の如き學術界及實業界の代表的人物ありと雖も紙面の都合上掲載する能はざりしは記者の遺憾とする所なり新年以後「一週一人」の題下に順次掲載す可し

高峰讓吉氏 氏の學術上に於ける事歷と功績とは世人の洽く知悉する所金澤に生る、工學博士にして藥學博士を兼ぬ、夙とに日米兩國間の平和に盡瘁して倦むことを知らず、ジャパニースミソオチヤの名は紐育の交際塲裡に嘖々たり日本協會の理事にして日本クラブ會長たり年六十一

村井保固氏 愛媛縣の人森村組の重役兼總支配人として富巨万を積む資性濶達、寛恕好く人の長を採る、氏の經歷と人物に就ては別項「森村組」に詳叙す可し、年五十八

故森村豊氏 森村組の創設者にして兄市左衛門氏と共に日米貿易業の先驅者たり三十二年四十四歳を以て逝けり資性謹嚴、氏か遺せし克己忍耐勤勉誠實の美風は今に於て森村組の靈的活力たり

●**尋人**
東京府 鈴木敬道
太田靜
小瀧敬次郎
在紐育日本帝國總領事館

本紙定價表（前金）

一枚	金五仙
一ケ月	金二十仙
半ケ年	金一弗
一ケ年	金二弗

發行兼編輯人　甲斐健
發行所　紐育新報社
紐育市パークロービルディング
電話　コートランド　二九五三

Volume 2.
No. 29

THE NEW YORK SHIMPO

SATURDAY,
Jan. 6, 1912

紐育新報

第廿九號

千九百十二年一月六日（土曜日）

●紫藤商務官談（承前）

「文責在記者」

雑貨貿易に就ては從來當業者の大に研究し來ッた處であるが、需用地の嗜好の試驗、又は實用上の可否等に至ッては未だ大に研究の餘地を存するものではあるまいかと思ふ、元來雑貨に屬する貿易品は日常需用者の家庭に於て使用せらるゝ物が多いのであるから第一其需要者の嗜好を研究することゝ、其需要に適するや否やを考ふることが最も必要である、而して其嗜好には時々變遷があるから此變遷に應じて其製造法を變更せねばならぬ。數年前に賣行宜かりしとて幾年も其儘の製造を續くる時は大なる失敗を招ぐことがないとも限らぬ、又是等の品物が其需要者の家庭に如何なる場合に使用せらるゝのであるか。其實地の狀態を見聞することが甚だ必要であらうと思ふ。例令ば日本より輸出せらるゝ團扇の如き、扇子の如き。提燈の如きでも然うであるが、初めて輸出せられたる以來。其構造形狀。繪の摸樣等一向變遷もなく研究もなくして今日に至れるには非ざるか、何とか其構造法を工夫するとか、色合を考へるとか、繪の摸樣を改むるとかの工夫はなきものか、何時も／＼同一趣向のみでは厭きが來て甚だ面白くない、殊に十年一日の如く同じ物のみを使用するとは米國人の氣質には少々向き兼ねるものには非ざるか、又玩具類でも然うである、人形にても其他の物にても年々同一の物ばかり來るやうである。是れも何とか工夫はなきか、殊に日本の玩具類は實用向でない樣である、是は面白いと思ッて購入れて見れば未だ家に歸り着くか着かぬ以前に途中で子供が毀はして仕舞ふといふ樣な物を多く見るのである、斯の如く持ちの悪しき物は一度は之を購ふも二度と再び之を購ふ氣は起らぬであらう、一事は萬事、一度斯の如きことがあれば其他の玩具類に對しても日本の玩具類は脆弱にして宜しからずとの惡評を受け、偶々丈夫なもの迄が信用を落すに至る、彼獨逸製の玩具が年々其輸入を増加するのは其考案の巧妙なる許りでなく、堅牢にして實用に適するからである、之は吾々の玩具類に就て大に考慮すべき點ではあるまいか、又陶磁器類に就ても其下等の物に至りては如何にも脆弱にして實用に不適當なものがあるやうである、高價で買入れた花瓶が花を活け水を入れると其水が忽ち洩れ出でゝ、高價なるテーブルクロスが散々にぬれて臺なしになッたとの話を聞いたことがある、之は甚だ感心せぬことである。日本雜貨でも米國の臺所にて之を取扱ふ習慣が日本の「をさんどん」のとは異ッて、亂暴であるから其脆弱なものはドン／＼破損して仕舞ふ、從來の日本ものが只一つの飾物然たる傾きがあるのは殘念でならない、之は勿論價格との相談にて價格さへ高ければ良き品の出來るのは受合である、然しイクラ價格が安くても實用に適せぬものを賣るのは褒めたことではない、故に其損失のない程度に於て價格相當に何とか工夫はないものかと考へるのである、又雜貨類の價格に就て一二外商の苦情を聴ひたことがある、夫は外でもない即ち日本の雜貨は同一の品物にして甲に賣りたる價格が乙に賣ッた價格と大に相違する事ありて商店として之が仕入を爲すに甚だ難儀であると共に他に賣込の約束を以て日本品を仕入れる事は極めて危險なり、何となれば斯る約束を以て仕入れたる品を契約者に渡さんとする場合に他より同一の品を自分の物より安く供給する者あるに於ては、忽ち自分等の約束は取消さるゝに至るからであると話した、是等は事實であるだらうか知らぬが、若し斯樣な事ありとすれば大に注意すべき事である

要するに日本雜貨の需用は右の如く其嗜好を考へ實用的の製造法を講じ誠實に且つ合理的價格を以て賣買するに於ては必ずや前途有望なる事と思はる、現に紐育地方のみにても近來新たなる日本の雜貨店が年々增加しつゝあるのは幾分か此傾向を示し來ッたと云ふもので誠に結構の至りである、勿論永く當地に居て米國人の嗜好も習慣も熟知し、且つ他人の失敗の經驗をも聞知せる當地方の人々は前に述べたることの如き事は充分に承知のことであるが、事情に通ぜぬ新事業家は予と同一の考を以て商賣をなさるゝに於ては其成功は期すべきである、又切に其成功を祈るのである

（完）

◎　◎　◎

枯蓮　　茸月會

枯蓮や昔語らふ城の跡　笑月
綠蔭何處蛙問ふらし枯蓮　自然
月冴ゐて水鷄の歩む枯蓮　玉醉
蓮枯れて石塔高き砦かな　秋津
佛跡と聞いて笠取る枯蓮　同
水に落て[illegible]蔭多し枯蓮　ばなゝ
枯蓮の池に夕日の富子浮ぶ　同
枯蓮に物思ふ夕翡翠飛ぶ　菅天
朱欄剝げて堂守もなし枯蓮　同

◎　◎　◎

在米同胞發展の眞意義（前々号の續）

故山逸客

然らば資本の薄弱と云ふ問題は如何に解決し、亦如何なる施設が其弱點を廢止するに急務なりやと云へば、前途有望と認むる事業を見出し得たる時は可成獨立的態度を打捨て、合資或は株式、、、、之は規模が大きくなるけれども、、、の形式として零細なる資本を吸收せねばならぬ、吾人の常識の表面のみが現代的であッて、肝要の事業の組織と經營の能力とが德川時代の鎖國式では到底文明の潮流と推移して往くことは六ケ敷はない乎、ヨコデ資本の合同を計畫すると共に、一方に於ては日本人の爲に特殊の金融機關を設置する事が刻下の急務である。假令ば先輩の諸紳士、就中高峯博士や村井保固氏などを網羅して相應の出資を仰ぎ、是等信用あり地位ある先輩の指導監督の下に一銀行を起して有無相通ずる便法を[illegible]たならば、同胞事業發展に資する處蓋し甚大であらうと確信する、彼の猶太佛等の殖民が南米、南亞若くは布哇諸嶋に於て占め得たる現時の地位は一言にして悉くせば資本妙用の賜と稱すべきであらう、唯惜むらくは邦人の頑癖たる島國的根性、卽ち狹[illegible]ビジチスの爲には大敵たる宿痾を醫するに非ざれは折角の好事業をも自滅せしむる結果となるのを恐るゝ次第である、此大患は無論一朝一夕にして根治する事は出來まいけれども、少くとも其緩和劑としては先づ紐育地方に同胞の社交[illegible]互に意志の疎通を計[illegible]に盡すべきである、[illegible]倶樂部と共濟會とか[illegible]の團体を設立するか[illegible]二者を合同して一と[illegible]は合同は絶望であ[illegible]して先輩と後[illegible]一種の障を除去す[illegible]あらう、新人の私見に[illegible]所謂先輩も昨日は後[illegible]である、隨て今日の後[illegible]先輩となるべきであるから此兩者の間に階級を築くのは根本より非常識であると明言する、元來先輩として尊敬せらるゝ地位に在る人は、卒業後輩を指導し誘掖すべき社會的義務のある事を忘れてはならぬ、勿論後輩をして卑しむべき依頼心を惹き起さしむるが如き愚劣なる「ヘルプ」を與へよと云ふのではなくして、間接に直接に精神上から將又物質上から同情を注いで後輩をして他日自己が後繼者として社會に先輩として重んぜらるゝに恥しからぬ樣時代に適應せる助力を與ふるに躊躇すべからざる次第である、然るに固陋なる階級的思想を抱く人、或は事勿れ主義の影にかくれて其道を盡すの誠意なき人は先輩としての任を辱しむる者と云ッて然るべきである、隨ッて双互の誤解を一掃し兄弟墻に鬩ぐの咄々怪事を根絶せんには社交機關の紹介に待つ處鮮からぬ譯である、例の天長節祝賀會の如き、總領事主催の外交的宴會は別問題として、他は可成一般同胞を一堂に招致して、老若先後藹然一團となッて靄[illegible]たる和氣のあふるゝ間に祝賀の誠意を表するの方法を講じ名士の講演會の如きも便宜多く、かつインフルウエンスのある先輩は斡旋し時々之を開催して後輩指導の一方便とすべきであらうと信ずる、後輩と稱する人々も又自己の修養を怠りながら學識經驗共に淺薄なるにも拘はらず、徒らに先輩の感情を害するが如き不謹愼の言動を戒めて恭謙の德を發揮するに留意するなくば、先輩と雖も忽ち一部のジンゴウ連が主張するが如く、、タックアップして居ると云ふ次第でもなからうから、自然胸襟を開いて喜憂相分ち利害相思ふの美風を作るに至るは疑なき處と信ずる、依之吾人は此機會に於て謹んで先輩と後輩との猛省を促すの至當なるを認むる者である

以上述べたる外、在米同胞の發展に關する枝葉の問題は多々あるに相違ないであらうが、吾人は苟も遠大の志を抱き、有爲の材を以て自任する青年諸君に對して一層眞面目に各種の問題を捉へて研究せらるべき愉快なる責任を双肩に荷へる事を自覺せられむことを主張する、要之發展とは進歩を意味し、膨脹を意味するのであるから研究を忽緒に附する樣では自己が發展を云爲する資格がないと斷言せねばならぬ、是れ吾人が同胞發展の眞意義を高唱して諸君の一考に供する所以である（終）

Published every Saturday by
THE NEW YORK SHIMPO CO.
Park Row Building
13-21 Park Row, NewYork City
Tel.Cortlandt 2973
5c. per copy, $2.00 per annum
Entered as second class matter ... 21, 1911, at the Post Office at New York, N. Y., under act of March 31, 1879.
KENICHI KAI Editor and Proprietor

●日本近信

●水野紐育總領事歸朝　水野紐育駐在總領事は十二月九日午前横濱入港の天洋丸にて歸朝せり氏の談に曰く、

▲清國革命事變については何等米國の輿論として唱道されつゝあるを聞かず唯共和黨の機關新聞が今回の革命叛亂にして幸に清國の將來を改善する事を得ば清國民の爲に慶賀するなりと論じたる位なり又日本の態度に對しても何等云爲する所なく極めて平靜の姿にあり▲清國の時局については所謂清國通を始め日本新聞紙等が均しく筆を揃へて其將來をトし居れるも變轉極りなき清國の事とて前途測り知るべからざるものあり從て容易にその結論を見出すこと頗る困難なり革命軍とても斯る大變を釀すに至るべしとは豫期せざりし所ならん▲米國刻下の問題としては別に語るべき材料なし明年の大統領選擧に對し目下公認候補者たるべきものゝ豫選競爭の多忙を極めつゝありタフト、ラ・フオレツト、ウキルソンの諸氏運動中なるがウキルソン氏の如きは全体を通じて大なる勢力を有せざるも重なる候補者として侮り難き勢力あり愈よ公認候補者として起たばその勢力見るべきものあらん▲ルーズヴェルト氏は目下社會事業、婦女教育等の方面に對して文筆に演説に熱心に盡力しつゝあり政治上の問題に對しては毫も手を出さずアウトルック誌上に於て現内閣のトラスト征伐を攻撃しつゝあるを見受けたり云々

●大倉組組織變更　豫て安田、三井兩家の例に倣ひ其事業組織を株式會社に變更すべしとの噂ありし大倉組は今般愈ゝ株式組織となすに決し取締役頭取に大倉喜八郎氏、副頭取に高嶋小金次氏當選し外に大倉粂馬、門野重九郎、大倉喜七、大倉發身、高谷[illegible]二氏等取締役となれり

●海軍將官異動　十二月一日海軍將官以下の大更迭發表されたり重なるもの左の如し

待命大將男爵　片岡七郎

補軍事參議官
第一艦隊司令長官海軍大將男爵　上村彦之丞

補軍事參議官
佐世保鎮守府司令長官中將男爵　出羽重遠

補第一艦隊司令長官
第二艦隊司令官中將　島村速雄

補佐世保鎮守府司令長官
竹敷要港部司令官中將　吉松茂太郎

補第二艦隊司令長官
第一艦隊司令官少將　[illegible]　綱明

任海軍中將補竹敷要港部司令官

●清國の革命亂

▲形勢益々混沌たり▼

⊙過去一週間東京及歐洲よりの來電は清國現時の形勢が日に〳〵險惡の兆候を示しつゝあることを報じ來り殊に袁世凱と唐紹怡の意見衝突、[illegible]の召還、官軍の背叛、革軍の不統一は江南江北の人心をして迷宮の中に彷徨せしめつゝあるの狀豫想以外なるが如し

●官軍の背叛（ペキン二日）

欒州にある四千の官軍は昨日公然共和政治を希望する旨を發表し同時に革兵の應援を求めて本日ペキンに進軍すべきことを聲言したるが鎭將島に在る官軍も本日ペキンの列强公使館に右と同樣の通牒を發したり、依て三千の滿洲兵は彼等を征服の爲派遣されたるが背叛したる前記官軍は滿洲兵と共に革軍の征討に向ふべく豫定され居たるものにして清廷の

憂患は右に付き更に一層の重きを加へたり

⊙袁の決意、談判の前途（同三日）　袁世凱は唐を召還し自ら電報を通じて伍廷芳と談判すべしと提言したるも

呉は其不可能を告げ

袁自ら上海に來らんことを望めり然れども袁が列國使臣に「事

已に決す吾革軍を屠つて立憲帝政を樹立せん

と」告げたる所より見れば戰爭の繼續は免れざるべし

●日本を疑ふ（上海三日發）

當地の諸新聞紙は日本が清國政府に警告を發しつゝあることを[illegible]

日本政府は講和談判委員に支那共和國の樹立は日本の爲に甚だ危險なりとの意を通じたりと

●孫逸仙大統領となる

（南京三日發）　孫は一月一日を以て支那臨時政府の大統領に推選せられ二日就任の宣誓式を行へたるが彼は式場に於て新政府の施政方針に關する長演説を試み、かつ新政府確立、平和克復後は直ちに大統領の職を退くべきことを公言せり黎元洪は副大統領に呉廷芳は撿事總長となる

●清國電報　東京　▲袁世凱の要求により皇太后は征討費として八万オンスの金塊を供給し慶親王と共に他の諸親王を説服して軍費を提供せしむ▲蒙古駐屯兵の指揮官は清帝及諸皇族の蒙塵に備ふる爲め古護衛軍の組織及宮殿設備費として十万兩を朝廷より受領したり

●支那共和國承認の決議案（華府三日發）　下院外交部委員長サルツア氏は本日支那新共和國承認の決議案を提出したるが該案は直ちに委員附托となれり、袁の列强使臣に通せる決意は國務省に於て確かめられたり

●エヴワンス少將逝く　有名なるフワイティング、ボブ、エヴワンス少將は去る二日午後四時三十分急性胃炎を以て突然逝去したり同少將は東ヨウ艦隊司令長官として永く吾邦に滯在したる人にて朝野の間に數多の知己を有す享年六十五

●詩人ディッケンスの令息逝く　アルフレッド、テニソン、ディッケンス氏は去る二日午後五時ホテルアスタ[illegible]にて死去したり

●白館の一月元日　大統領タフト氏は例の如く一月一日ホワイトハウスにて賀客の來訪を受けたり當日の訪客は總計八千〇九十二人にてタフト氏は一々握手の禮を行ひたるが其タイムを計るに一人の握手に一秒時を費したる割合なりしと尚當日は天氣晴朗一點の雲翳なく[illegible]を極めし館内の生花其の他の裝飾は朝野各名士の歸服、貴婦人の盛裝と相俟て其[illegible]

●露國の横暴

（[illegible]）▼

波斯首都よりの來電に由れば波斯タブリッツに於ける露兵の横暴は言語に絶し僧侶、市會議員、市民に論なく白晝公然絞殺せられ政官吏は英國銀行に避難せり他の都會に於ても知事、警部長、市長等は追放せられ苟にも露國に敵意ある疑ある者は一々捕縛せらる

●伊地知海軍中將の薨去　東京發電に由れば同中將は月四日薨去したりと同中將は日露戰役中三笠艦長として殊功あり千九百九年日米戰爭説の盛んなりし當時練習艦宗谷、阿蘇の二艦を率ゐてロスアンゼルスに來航したる人なり可惜

●水野前紐育總領事の任命
公使館一等書記官正五位勳三等　水野幸吉
清國在勤を命ず

●某大臣の對清意見　清國動亂の平和解決が一日も速かならんことは列國の等しく希望する所なり然るに官革兩軍講和の條件として革軍の民主共和制論に對して君主共和制を唱ふる者あるも君主共和政なる語は全く意義をなさず又君主立憲政は革軍の全然排斥する所なれば政体の變革について兩者の間容易に意見の一致を見ざるべく從て講和の成否は未だ全く判斷し難きも列國は此際努めて平和的解決に盡力せんとし帝國も亦列國と歩調を同うして之に盡力すべし從來世間に對清政策を論ずるもの少からざれども形勢は時々刻々に變化するを以て其議論たる何等の基礎あるにあらず全く見當違ひか然らざれば間違だらけにして前途は依然暗黒なりと云ふべく此際對清態度の決定を見ざるは當然にして獨り帝國のみならず列國も亦然り殊に袁世凱の眞意いまだ知り難く北京朝廷の中心動搖し居るを以て今日の場合帝國は列國と歩調を一にして[illegible]の措置を執るの外なしと某關係は語れり

●本紙定期發刊日　は毎週金曜日なるところ新年號發行の後始末に豫定のタイムを取られ止むなく一日おくれになりたり讀者幸に諒せよ

雜報

●ラッセル氏の日米關係評　昨年九月日本協會會長ラッセル氏と共に日本及滿洲朝鮮に赴き吾邦の狀態及其外交狀況を視察して歸りたるインデペンデント主筆ハミルトンホルト氏がタイムス記者の質問に答へたる日米關係論は先月卅一日の日曜タイムスに詳かなり殊にノックス氏の提案したる滿洲鐵道中立問題と彼の四國借款事件に對する吾朝野の對米感情を明かに説きて米人の注意を促がしつゝ米國人が日本研究を等閑に附しあるとを慨したるコウ平の所説は最も見るべきものなり

●昨年中紐育で殺された人の數　昨年中グレーター紐育市にて殺害されたる人間の總數は二百五十七にて人口一万六千五百五十に付一人づゝ殺されたる割合となり之を時間に割當れば三十四時間毎に一人となる由にて人口の増加にも拘はらず殺人犯は五年前に比して著しく減少したりとの事となり短銃携帶禁止律勵行、無頼漢逮捕等は確實上に殺人犯者を少なからしむべしと云ふ

●本紙寄稿者の新年宴會　は明七日（日曜日）午后七時[illegible]に於て開催の筈なり

●支那街の革命祭　孫逸仙は大總統任と同時に從來の陰曆を廃し新たに陽曆を採ヨウするとしたりとは過日の南京電報に見ゑたるが本月一日は新政府組織の當日にてはあり人に取りては生れてから始めての御正月なれば元旦の祝祭は可成盛んに執行せんとの企望にやありけんモット街十六番の本營には革黨の黄龍旗を撤し滿街の老若男女手に手に[illegible]を持ち上にウチ集いて新政万歳漢族万々歳を絶叫しワシントンに何とかとかいふ日頃の顔意を此日だけは控へ[illegible]かなる祝祭を催はしたるが當日の儀式中新大統領よりの電報を讀み上げたる時の如き一同の狂喜歡聲は其頂上に達したり其の電報は左の如し

余は選擧げられて總統となる、吾人の目的は專ら人類の自由を主張し世界の和平を求むるに在り　孫逸仙

今回の祝祭は宗教的のものに非ずして教育的のものなりとの意見を以て本會に要求しありたる孔夫子の肖像を仕舞い込み其代りに孫逸仙の寫眞を置きて三拜九拜に及びたる由、流石の孔子樣も地下に恐れ入つて成程後世恐る可しと感心せしや如何に

●瓦斯の悲慘なる死　去る十二月廿九日の朝東十九丁目百十五番の貸ルームにて瓦斯の爲チツ息されて死したる人あり、家主人より共濟會に其始末方を申出でたるより幹事片山氏は早速馳付け取調べたるに死者は滋賀縣人清水和十郎といふ人にて十二月の半頃に北村福松氏方に在り音樂研究の爲某學校に入る目的なりしと、死因に就ては目下取調中なれば爰には記さず、死体發見の際は温室用ギヤスストーヴのパイプが外づれ居たる故多分就眠中何かの作用にて右パイプがゆるみ悲慘なる最後を遂げたるものならん、聞く處によれば死者の兄なる人はユタ州ソルトレキ市附近に在りとのことなれども住所判明せず共濟會にては諸方へ照會中なりとぞ、若し其住所承知の方もあらば共濟會宛に通知あり度ものなり

●日本學生の討論會　日本人學生のスチューデント倶樂部にては來る七日（日曜日）ジャパニーズ、スデーを開き在紐育の全日本人學生を招き日本語の討論會を催はす筈なり出席學生諸氏の成功を祈る

▲▲往來及集會▼▼

▲チカゴ大學教授ドクター家永豐吉氏はさる四日着紐武市のセントヂョージに滯在中

▲本田增次郎氏は四日亞市へ出張

▲森村組の宮永氏は三日出發歸朝

▲東京高師教授野田義夫氏は二日華府より歸紐きたる十日ボストンに行くべしと

▲一日に催ほされたる新年宴會は日本クラブ及若松に於ける森村組、[illegible]に於ける茂木、東京館の岡野、中西、[illegible]生、等にてその全屆の集會する所にては夫々新年の祝會を催ほせり

▲先月卅日倉田にて忘年會あり出席者約五十名

●正誤　前号の紙上にて紐育大學生の[illegible]吉氏の訃首とせし記事は[illegible]にて死者は昨年六月全校を卒業したる[illegible]岡勇吉氏に付爰に正誤す

●謝　新年号に玉稿を給ひたる諸名士並に第一區に掲げたる「[illegible]の[illegible]目出度う」を揮毫しかつ寄贈せられたる大谷春光畫伯、その他記事の調査につき種々な便宜と好意と全情とを與へられたる人々に對し改めて感謝の意を表し申候尚社友諸君の御助力に對して深く御禮申上候　記者

●新年廣告に就て　第一面に於ける高峯博士外五氏の年賀廣告は前号に掲載すべき筈の處小生不行届の爲掲載を逸した。疎漏の罪甚だ大なり依て右廣告は改めて本紙第一面に掲げかつ用紙は五氏の爲特に新年号と全一のものをもちゐて謝意を表す　甲斐健一

半世紀の今昔

紐育　文　見

[illegible]

●森村組　その二

[illegible]

Volume 2 THE NEW YORK SHIMPO SATURDAY

紐育新報

清國革命の影響と日本國民の思想

ジョル 博士

求

日英兩國其他の獸

西藏要求の早晩の事ならんと 英國の

分割を信ず

滿蒙の政治と日本

英文書籍

總瑞書

●大火事

●支那町の大搜索

紐育日本

人の名前

[illegible]

THE NEW YORK SHIMPO

SATURDAY

[illegible]

紐育新報

紐育新報

福富尚尊君の國に歸るを送る

[illegible]

●新渡戸博士

[illegible]

●作家より

[illegible]

國に歸る福富君を送れ

[illegible]

THE NEW YORK SHIMPO CO.

[illegible]

不成功の禍　帝政位の期近づく

日本通信

大阪の大火（十六日）

森林組

[illegible]

雑報

[illegible]

紐育日本人の今昔

紐育大學の近況

Volume

THE NEW YORK SHIMPO

SATURDAY, Jan. 27, 1912

紐育新報

袁世凱の態度

新渡戸博士の談

北京政府の不統一

形勢一變を致したり

權力を南京に保留する事

日本人の不良なる忠告

滿洲退位せず

伊佛の小葛藤

留別の辭

貸家あり

賣物

謹告

對露貿易好望

森村組

Volume 2 No. 34

THE NEW YORK SHIMPO

SATURDAY, Feb. 3, 1912

紐育新報

紐育新編

ナイアガラ

●前日の晩に

日本海軍の活動

北京發電 上諭は

皇位放棄の上諭は

本日皇太后の署名を了れり　皇帝及

諸親王は滿兵騒亂の恐れあるを以て

こゝ一ヶ月間は北京を去らざるべし

●日本通信

●總領事代理任命

●市通信

●長濱君

紐育市の警察

ニューヨーク大學の近況

Volume 2 No. 19

THE NEW YORK SHIMPO

SATURDAY, Feb. 10, 1917

紐育新報

偉人を憶ふ

今、リンコルンの百□回の誕生日を迎ふ

移民は一國の元氣なり

寸鐵

●米國の對日關係

●森村組

●有望の土地

出版界の爆裂彈

（鳴天鼓）

鐵血

鐵血山を落して山形改めしは是乃木將軍爾靈山の詩也

戰爭にあらずして虐殺なり

乃木將軍

六人をして筆を執らしめたるもの言々皆血皆涙

日本戰爭

陣中日録

北京より

印刷鮮明
いしイ且迅速
横濱印刷社

鈴木政光

ニューヨーク 日本人の今昔 (其一)

[illegible]

Volume 5. No. 133

THE NEW YORK SHIMPO

SATURDAY,

紐育新報

紐育新報



祝 元節

大隈伯の清國革命觀

移民と一國の元氣

●大清帝國の滅亡
●中華民國の創立

[illegible]

●支那商船會社を
●日本郵船會社
買受けたるは間接
革軍に軍資を供給
せしものなり

[illegible]

大倉組と漢口鐵道

[illegible]

●叙任辭令

[illegible]

●ボストン便り

●杉本氏の投身

●珍田駐米大使

北米寸行

米人と保険

Volume 2.

No. [illegible]

THE NEW YORK SHIMPO

SATURDAY,

Feb. 24, 1912

紐育新報

ワシントン

紐育新報　社員

[illegible]類の裡の道を切り[illegible]は人皆[illegible]の如き店[illegible]が茲に之を[illegible]する[illegible]然るに[illegible]して[illegible]なり。されど[illegible]道を[illegible]は[illegible]に今[illegible]の[illegible]子女弟妹に[illegible]教育の上[illegible]

[illegible]より[illegible]れて[illegible]修[illegible]に心を[illegible]見る可き[illegible]路に[illegible]用[illegible]をすものにして或はキリ[illegible]教旨に[illegible]なり[illegible]人往々[illegible]に因はれ[illegible]法を[illegible]生きさ[illegible]獄に[illegible]んとす。[illegible]輩が年々歳々ワシントンの[illegible]を[illegible]て以て彼れを紀念し[illegible]を飛ばん[illegible]

[illegible]今、[illegible]紐育[illegible]に[illegible]執行せしむ[illegible]是れ[illegible]を重んじて人を[illegible]人を[illegible]よ[illegible]は[illegible]者なし。[illegible]も人[illegible]

ホルト氏の移民及満洲問題意見

[illegible]日本の[illegible]民の[illegible]移民[illegible]

一九十二年二月[illegible]日

[illegible]

[illegible]氣[illegible]

[illegible]

戯

[illegible]

滿洲滅亡國の支那

[illegible]

……に於ては事態は一變困難に陷る可し

[illegible]

大淸帝國暦

[illegible]

英國內閣の更迭近し

[illegible]

在外の本邦人

[illegible]

寺内總督暗殺の陰謀

[illegible]

日本宣教師米國宣教師を捕縛す

[illegible]

出版界の爆裂彈

[illegible]

鐵血

「鐵血山」觀と山形改むべくは是乃木將軍閣下

珍田總領事時代

友の手紙

海外に於て流浪する親子兄弟は何編よりの手紙程嬉しいものはない。

明暮、自分の前途のみを考へ……

[illegible]

Volume 1. No. 51

THE NEW YORK SHIMPO

SATURDAY, May 2, 1917

紐育新報

紐育新報

當世牛耳通觀（上）

政治家と政略家

ル氏愈々逐鹿場裡に入る

何なる事情の下に二度大統領推…を承認せしか

いよいよ自己の立場を公言す

タフト氏は大統領候補者の地位を争ふ

一般は氏の唯我獨尊的言及其急激なる改見に惡感を抱く者多く…タフト氏を推さん…分裂失敗

森村組

鐵血山を覆ふて山形攻まむ」は是乃木將軍の詩

戦争にあらずして虐殺なり

乃木將軍

大人をして筆記せしめたる…皆涙

森村組

不屆千万なる廣告妨害者

郵便物發着表



自動車學校

New York School of Automobile Engineering

大急行

大急行



新開業洋食店

藤田兄弟商店

アルバニー　レストーラント

下宿有り度し

一場所

本會館内食堂中

日本人北海舘

安い間に毎月數弗づゝ

土地大賣出し

日本人ゟ市民同盟ゟ土地所

月賦十弗づゝ

日本人部支配人　三木　宏吉

THE YOKOHAMA SPECIE BANK, Ltd.

横濱正金銀行紐育出張所

YOKOHAMA PRINTING Co.

印刷鮮明　廉にして且迅速

横濱印刷社

御下宿

倉田　平次

鮮魚一切

東洋通信社

旅舘賣物

チャプスイ屋の賣物

歯科治療

日曜日

岡田歯科醫院

岡田　浦

竹中　健吉

診察時間

Dr. K. MURASE

村瀬九郎



診察時間

中村　正一

●ニューヨーク 日本人の今昔

Volume I No. 38

THE NEW YORK SHIMPO

SATURDAY

紐育新報

第卅八號

Published every Saturday by
THE NEW YORK SHIMPO CO.

日米親善策と日本協會

紐育新報



出版界の爆裂弾

○覽大寶○

鐵血

鐵血山ヶ殺して山形
改まる是乃木將
軍爾靈山の詩の一
節に非ず
戰爭にあらずし
て虐殺なり

乃木將軍

天人をして筆述で
しめたるもの言々
皆血句々皆涙

日米戰爭

世界評論總目錄

The Yorozu Co.

よろづ商店

四十名の眼球

抜取

満洲駐在兵千二百

人

英米大同

盟罷工

珍田領事時代

紐育新報



同化植物と海外移民

[illegible]

Volume 2. No. 39 THE NEW YORK SHIMPO SATURDAY

紐育新報

第卅九號

紐育新報 共濟會の革新に就て

珍田大使回顧錄



●會員諸君に謹告

河添村治 友人一同



●唐紹怡總理

●□□依然たり

●日本の派兵

●新共和國の危機

●東京電報

●大同團結一束

珍田大使を迎ふ

日本人

パーマー博士

郵便物發着表

歸化植物と海外移民

[illegible]

森村組

[illegible]

土地家屋の周旋

[illegible]

Volume 2. No. 40.
THE NEW YORK SHIMPO
SATURDAY
紐育新報
號壹十四第

支那の將來と日本の位地



●日本と諸欧加入

●ミリス博士の辯明



出版界の爆裂彈 ○驚天動地○

鐵血

「鐵血山を覆ふ山形改まる」是乃木將軍再の詩一節に非ず。「戰爭にあらずして虐殺なり」

乃木將軍

夫人をして筆記せしめたるもの言々皆血涙

日米戰爭

ROEBSBACH

大雜店

ローゼンバック雜店

●當消費組に入つて日用品を直段で御求めなさい

WORLD HOME SUPPLY COMPANY

食料品・着物・家具・御直段

●業務代理人入用

●日本婦人入用

●郵便物發着表

日本人

時評

●土地家屋の周旋

Volume 7
No. 11
THE NEW YORK SHIMPO
SATURDAY, Mar. 30, 1912

紐育新報

第四十壹號

千九百十二年三月三十日（土曜日）

Published every Saturday by
THE NEW YORK SHIMPO CO.
192 Park Row, New York City

日本人共濟會の起源に就て

[illegible]

珍田大使回顧錄

[illegible]

宇内を震動せる世界的大文字

日米戦争

米人強盗を手に死し…成行…

支那海で…七名

米国政府牛の肉…

二百万円の借…

四強國に對し公平な處置…

內國債償還…

土地家屋の周旋

王様を取り度し

…氏の紐育に於ける大敗

大雜店

武五十仙

ローゼンバーグ雜店

日本婦人入用

ボストン便り

森村組許償銭事件の顛末

郵便物發着表

地所貸たし

木下園太郎

隅眺

Volume 1. No. 4[illegible]

THE NEW YORK SHIMPO

SATURDAY, Aug. 9, 1917

紐育新報

第四十二號

一千九百十七年八月四日發行 土曜日

紐育新報

日本人共濟會の淵源に就て

珍田大使回顧録

●宇内を震動せる世界的大文字

日米戦争

●日米秘密條約の…

●石本陸軍大臣

東京電報に依れば石本陸相去四月二日…享年五十九

●内國積極廣告

●新刊書籍

血烟

屍山血河

●日佛…の成立

●森村組詐欺裁判事件の顛末

Volume 7 | THE NEW YORK SHIMPO | SATURDAY

紐育新報

第四十三號

市俄古通信

寸鐵

字文大的世警るせ動援と内多

日米戰爭

西園寺首相（タゲノ大詩）

陸相新任

新刊着荷

血畑

屍山血河

大靴店

ローゼンバタ雑店

●悪漢野上重太郎捕縛せらる

●森村組評價裁判事件の顛末

○旅館より物

○球突場売りたし

Volume 2.
No. 44

THE NEW YORK SHIMPO

SATURDAY
Apr. 21, 1917

紐育新報

第四十四號

大統領選擧と實業界

政黨家と政治家

● 字内を震動せる世界的大文字

日米戦争

● 世界最大船の

● 新刊紹介

血煙

屍山血河

詩人

中村安太郎君

前代未聞の優遇

Volume I. THE NEW YORK SHIMPO SATURDAY MAY 11, 1912

紐育新報

第四十六號

一千九百十二年五月十一日

THE NEW YORK SHIMPO CO.
Park Row Building
New York City

内外人共營の事業

大統領選擧と實業界

紐育市内外の土地

寸綴





●宇内を震動せる世界的大文字●

日米戦争

六国の態度

新政友会意見

●衆議院議員総選挙形勢

●郵便物發着表

●女學生の死

●有吉洗濯所
うり渡し

THE NEW YORK SHIMPO

紐育新報

政治家と政容家

紐育市内外の地所

NEW YORK ACREAGE ESTATES CO.

紐育土地建物株式会社

資本金弐百万弗

拂込濟百万弗

社長

副社長

紐育市郊外山林田畑の賣買

郊外郵邑邸宅花園の建設

地處家屋所有權証明書發行

地處家屋所有權の信託業務





● 宇内を震動せる世界的大文字 ●

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇　日　　米　　戰　　爭　〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

● 北京の現狀

● 新刊書籍

血烟

屍山血河

よろづ商店

The Yorozu Co.

● 夏場向

THE YAMATO CO.

多治見商會

S. STRAUSS

WINE MERCHANT

ストラス酒店

酒問屋

ROSENBACH

大靴店

五十仙

靴店

三樹太郎

● シガー

問屋

● 商業用自動車

● 野菜穀物安

價販賣

佐藤鈴木

中村安太郎君

● 廣告

小森壽郎

THE YOKOHAMA SPECIE BANK, Ltd.

55 Wall St., N.Y. City

橫濱正金銀行

紐育出張所

EMPIRE TAILOR

New York

エムパイヤ洋服店

笠井德治

MIKADO

日本雜貨

森村ブラザース

Morimura Bros.

● 殊笑所新開業

久留島旅館

譲受

廣告

東洋倶楽部

森村組評價裁判事件の顛末

郵便物發着表

No. 18 Volume 2

THE NEW YORK SHIMPO

SATURDAY MAY 25, 1918

紐育新報

第四十八號

[illegible]

讀んで妻女を呼べ

[illegible]

色々中上候

[illegible]

●變更



● 字内を震動せる世界的大文字 ●

日米戦争

● 新刊着荷

血戦

尾山血河

よろづ商店

The Yorozu Co.

● 黒人の叛乱

● 野口英世氏と

● 第十一回帝国議会

総選挙

当選者一覧表

大店

S. STRAUSS

WINE MERCHANT

酒問屋

THE TAJIMI CO.

多治見商会

問屋

三樹 太郎

米國の出兵

郵便物發着表

一　紐育日本人の…

紐育新報

第九十四號

The Japanese Times Co.

Park Row, New York City

個人性の向上と宗教

色々申上候（二）

●宇内を震動せしむる警世的大文字●

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇　日　米　戰　爭　〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

●ニューヨーク米國の干渉に反對す

[illegible]

獲得せし廣大な生産地

[illegible]

●新活字注文●

發送の聞に爲め今度日本より活字百万ケを注文せり 紙面の擴張を行ひ以て讀者各位の愛顧に酬ゆ

紐育新報社

●前金切れの

[illegible]

●獨逸の論評と怒り　氏

[illegible]

何威

[illegible]

●第十二回帝國議會衆議院議員總選擧當選者一覽表

[illegible]

●新刊着荷

血煙　屍山血河

書籍總目錄

●コーナーアイランドだより

●郵便物發着表



●六〇六號

No. 50
Volume 2

The Japanese Times.

SATURDAY
June 8th, 1912

紐育新報

第五十號

Published every Saturday
by The Japanese Times Co.

滯獨所感



字内を震動せる世界的大文字

米國紐育新報記者(一ノ瀬)著
日本新聞界の為に

日米戰争

●露國の借金政略

紡績事件以來の米國 彼の條約を缺き特に同事件の米國資本家の反感

●日英同盟の擁護

●新活字注文●

新活字百万個を注文し紙面の擴張を行ひ以て讀者各位の愛顧に報ゆ

紐育新報社

●留氏選擧運動費 百二十五萬弗の出處

●キューバ叛徒 益々猛烈

●レ黨擁護大會

●學士院授賞式

●小山谷蔵氏と逐鹿界

●新刊紹介

血爛

屍山血河

●第十一回帝國衆議院議員總選擧當選者一覽表

●郵便物發着表

色々申上候（三）

[illegible]

紐育大學商科出身者の現在

[illegible]

No. 51
Volume 2

The Japanese Times

June 19th, 1915

紐育新報

第五拾壹號

共濟會の役員改選に就て

紐育土地建物株式會社

New York ... Company



●大統領同盟説

[illegible]

●武富安氏のル氏政見評

[illegible]

●内閣変動の風説

[illegible]

●東京市長と市参事

[illegible]

●第十一回帝國衆議院議員総選挙當選者一覧表

[illegible]

色々申上候

[illegible]

英語將棋會話

No. 52
Volume 2

The Japanese Times.

SATURDAY
June 22d, 1912

紐育新報

第五拾弐號

一　社　説　一

社會問題

工

寸鐵

紐育土地建物株式會社

紐育市内外の地所

TAKEDA, KITAMURA CO.
102 Park Row, New York City

竹田北村商會

支店長羽田銀太郎

新治療法開始

村瀬九郎

診察時間

111 Lexington Ave. N.Y. City

DAVIS & WEISS.

大洋服店

仕立

印刷物受負

紐育新報社



日本旅館

寫眞・理髪店

東京特電

又もや六國借款の行悩

偽貨會成る

新艦の主砲

露國……日本

シカゴの攻戰

民國内閣の動搖

阪神航路

共濟會會計報告

ルーズベルト氏の失敗

ルーム貸度し

郵便物發着表

●ハワイ在留　同胞の生活

（はしがき）

[illegible]

●三猿伯の懐舊

[illegible]

No. 53
Volume 2

The Japanese Times.

SATURDAY
June 2[illegible] 1912

紐育新報

第三拾五號

〇寸 録〇

新政黨組織運動

民國政府の借款條件否認

活佛檄を飛す

民主黨大會

對支政策



●邦人土産大會

●郵便物發着表

●紐育在留同胞の幸福

●色乃中に上陸（三）

●上陸一遍通度

No. 51
Volume 2

The Japanese Times.

Saturday
1912

紐育新報

日本帝國財政難と總選擧

東京特電

同第二信

渡米移民方針不變

ウイルソン氏推薦さる

エ博士の職は

東京市長の後任

共濟會々長を辭す

新更物發着表

日本食料品 リンテル類 森村ブラザー

Morimura Bros.

MIKADO

洗濯

新開業 汁食店 藤田兄弟商店

アパニー レストラント

診察時間

東洋通報社



市俄古在留同胞の生活

なものが必要である。

色々中上候

世中も……

ない。

No. 55
Volume 2

The Japanese Times

SATURDAY

紐育新報

第五拾五號

●紐育のヲルヅベルト

●中華民國總理の更迭と借款談判

●日本と獨國

●米國は帝國主義と黒倒す

●日露協約と英國



布哇在留同胞の半面

前田中宮相 夫人藝妓と

No. 76 Volume 2

The Japanese Times.

SATURDAY July 20th, 1912

紐育新報

第五拾六號

Published Every Saturday by The Japanese Times Co.

一、論説一

歸化權問題の前途

[illegible]

●色々申上候

[illegible]

露獨商務會見の眞相

公の歸都者　桂

寺内總督陰謀事件と宣教師

社告

政友會の對地方

日一協會

南米航路擴張計畫

桑港大博委員渡米

●日英協約
●英國の抗議

●新便物到着表

中の五千圓

米高の養豚

No. 57
Volume [illegible]

The Japanese Times.

SATURDAY
July [illegible]

紐育新報

第五拾七號

時論

●寸鐵●

聖上陛下御不例の公電

[illegible]

●八公電　二拾五日三陛十拜診ハ

[illegible]

寺内総督暗殺陰謀事件

[illegible]

日露密約の内容

[illegible]



紐育新報

一隅一

共濟會に就て

布哇在留同胞の半面

[illegible]

No. 58
Volume [illegible]

The Japanese Times

SATURDAY
Aug. 3rd, 1912

紐育新報

第五拾八號

[illegible]

Published every Saturday by The Japanese Times Co. [illegible] New York [illegible]

奉悼之辭

維時明治四拾有五年七月参拾日紐育新報社同人[illegible]之微臣等恐惶誠懼謹しく[illegible]出雲聖天子の登遐を悼み奉る。

謹んで惟みるに　陛下天資英邁[illegible]僅かに弱冠に垂んとして先帝の[illegible]を継ぎ以て王政維新の洪圖を創め給ひ百官を統率し蒼生を撫育して先づ内變を絶ち[illegible]を披攘し[illegible]を恢宏して[illegible]で外患を除き玆に明治の一新紀元を開かせられ歴代祖宗の[illegible]を奉じて千古不磨の大典を制定し夙夜[illegible]事日あらせらるゝことなくして而も[illegible]の[illegible]を守り給ひ特に[illegible]襟を東洋永遠の平和を維持するに須ゆるに專らにして幾きには人道の大義に基き[illegible]を起して[illegible]服し國[illegible]為めに[illegible]り國[illegible]て暢ぶるを得たり[illegible]何ぞ[illegible]等の[illegible]、[illegible]年[illegible]説を[illegible]月を以て[illegible]發せら[illegible]んや。[illegible]れた[illegible]る致[illegible]若し夫れ[illegible]れ[illegible]勅語の如き[illegible]如き[illegible]



將た戊申の詔書の如きは其に倫理の大綱を[illegible]の要道を示し以て　陛下の[illegible]をして各其據る所帰ふ所を知らしめ給へる者にして[illegible]なる國家萬年の經典と可謂矣[illegible]なり　聖[illegible]炳焉として朝暾を[illegible]し　聖徳[illegible]として[illegible]に冠たるや。

然るに[illegible]天[illegible]付者の病魔を猶かに玉體を侵し奉りて竟に　聖天子の[illegible]壽を[illegible]む玆に於てか　陛下の威徳を[illegible]歌し奉る者邦の[illegible]を論せず[illegible]の東西を問はず[illegible]等均しく哀悼の情を[illegible]たんとす[illegible]の夜悲風蕭殺として常緑の古[illegible]めに傷み[illegible]千代田の[illegible]為めに[illegible]く[illegible]情極まり意盡きて亦[illegible]する所を[illegible]らず嗚呼[illegible]千秋の[illegible]なる哉。

（明治四拾五年七月三十日[illegible]）

先帝の御略歴

陛下御諱は睦仁　孝明天皇の第二皇子にして御生母は[illegible]中山一位の[illegible]なり嘉永五年壬子九月二十二日[illegible]京都に於て御降誕ましまし、慶應二年　孝明天皇の崩御あらせらるゝや御年十六歳にして正月九日御踐祚、翌明治元年戊辰八月二十七日[illegible]百廿一代の　天皇として御即位あらせられたり、同年十二月廿八日故從一位[illegible]の第三女[illegible]子姫を立て、皇后となさせ給ふ、之即ち今の皇太后陛下なり、申すも恐れ多き事ながら　陛下御降誕當時は徳川幕[illegible]家[illegible]の晩年にして幕府の[illegible]勢漸く衰へ[illegible]の處士密かに大義を[illegible]へて[illegible]者[illegible]に[illegible]する時にして嘉永六年　陛下御[illegible]の[illegible]亞米利加合衆國[illegible]艦隊[illegible]ンクリ、ヒアー[illegible]命を奉じ[illegible]を率ゐて浦賀に來たり、吾國三百年に渡る桃源の夢を驚まし、續いて英佛露獨の列強競ふて軍艦を派し以て通商貿易を請ふに至るや、人心洶湧[illegible]の[illegible]に落ちて尊皇佐幕の二黨に分れ國論[illegible]々囂々の裡に大老伊井直弼[illegible]然衆議を顧みず、獨斷外國と修交通商條約を結び盛んに攘夷黨を捕へて之を斬る、天下騒然[illegible]の[illegible]外の[illegible]となりて水戸の浪士等直弼を刺す是より先安政の大獄ありて江戸のみにても十万人の死者あり、斯かる紛糺國家多事の際に　陛下は御弱齢にして皇位に即かせ給ひ五事の御誓文を[illegible]して四千万日本[illegible]民の[illegible]るべき大綱を示めし國是を[illegible]め給ふ、維新の大業を成就あらせらるゝや、明治四年岩倉具視を大使として歐米列國を巡遊せしめられ又各締盟條約國に公使領事を派遣せらる、[illegible]來　陛下は[illegible]政に[illegible]を[illegible]ませ給ひしかば[illegible]は[illegible]々[illegible]下　陸海軍、[illegible]、行政、法律、司法、運輸、通信、[illegible]、[illegible]、外交其他凡百の制度は[illegible]學を基礎として[illegible]、[illegible]代[illegible]に[illegible]し[illegible]は[illegible]米[illegible]に[illegible]して[illegible]る所[illegible]事に於て[illegible]事に[illegible]り[illegible]の[illegible]進を遂げたり[illegible]しては[illegible]本[illegible]に[illegible]軍令[illegible]之を[illegible]り[illegible]の行政權より分立せしめて　大元帥陛下直轄の下に置き有事の日に其[illegible]を充分に[illegible]せしめ給ひしかば日清日露の兩大戰役に[illegible]作戰軍略[illegible]く[illegible]を誤らず軍事行政之[illegible]衛生共に[illegible]なく適應せられ百戰百勝彼の尨大なる清露兩國をして鮮[illegible]に[illegible]する野心を放棄せしめ最爾たる日本帝國は一躍世界列強の班に伍するに至れり、是れ素より國民の努力[illegible]せるありと雖も亦　陛下の深沈なる[illegible]と宏遠なる大御心とに由らずんば非ず、即ち常に叡慮を外世界の形勢時運の變移に注がせられ細[illegible]各國元首との御交際を重じ給ひ、内閣[illegible]の統[illegible]人心の[illegible]に最も深く留意あらせられ民[illegible]と政治との一致を圖り國家萬年の大計に傾盡在せられたり。●[illegible]　陛下は繁劇なる[illegible]政務の[illegible]日[illegible]風を[illegible]じ給ひしが[illegible]の[illegible]事は民草にかゝはるもの多かりしと[illegible]はる、陽[illegible]の[illegible]すらも蒼生を念頭に掛けさせられ、[illegible]を[illegible]す盛夏にも凛風肌を裂く厳冬にも九重深き千代田の宮に居まして御不例又は大演習に地方へ行幸になるの外は一日も政府出御を怠らせ給ひし事なかりしは如何に政務に御精勵なりしかを[illegible]し奉るに足る、　陛下[illegible]體[illegible]二百斤御[illegible]の丈六尺に近く御骨格[illegible]大、平素頗る御健康に渡らせられしに僅々十日[illegible]の[illegible]みにて[illegible]へなく[illegible]じさせ給へるは[illegible]云へ臣民の[illegible]せし[illegible]婚式の[illegible]を拜し得ざるに至りしは[illegible]遺[illegible]の極みなれ

御臨終と國民の悲嘆

[illegible]二十日[illegible]本[illegible]東京[illegible]は[illegible]て御臨終の[illegible]を拜承するに　主上陛下には[illegible]五日より漸次ご身[illegible]の御[illegible]加はり廿九日に至りては全く昏睡の[illegible]に[illegible]せられ[illegible]不[illegible]にて[illegible]一[illegible]人事の限[illegible]を[illegible]せし[illegible]な[illegible]二十日午前十

（二面へ續く）

（一面の續き）

二時四十三分　崩ギョ在せられしと、ゴ臨終の際は　皇后陛下を始めたてまつり　皇太子殿下同妃殿下並各皇族殿下御一同　主上陛下のをん枕元に侍せられ次の間には山縣樞密院議てふ西園寺首相渡邊宮相かく省大臣其他有司百官頭べを垂れて靜肅に謹侍たりしが宮城外に連夜　主上陛下の御回復祈り居たる二万有餘の群集は宮内省より發せられたる崩御の通告に接し絶望愁嘆の聲を呑み洛中洛外靜殺の氣滿ちて愁雲四方を閉ざすの感ありしとぞ

皇太子殿下御踐祚式

國家一日も主なかるべからず　主上崩御の通告と共に　皇太子殿かゴ踐祚式の準備は速時に執行され　殿下には午前一時各皇族方宮内大臣掌典てふ海陸侍從武官等御先導とし山縣公松方候樞密院議員陸海軍元師カク武官其他供奉し參らせて賢所に出御あり岩倉掌兼てふより神器並に御璽を受けさせられたる後嚴肅なる神式の下に御踐祚あらせ給ひ、式後百官諸有司を隨ねて御退出遊ばされたる由なり

● 主上陛下の御遺體は別殿に奉置され　皇太后陛下　今上陛下　皇后陛下各皇族殿下御通夜遊ばさる

● 主上陛下崩ギョと共に全國民は戸毎に半旗を掲げ喪章を着け銀行會社等は休業して何れも哀悼の意を表し奉り、列國外交官は一同宮中に伺候して御悔を申上げたり

●ゴ大葬準備として臨時御大葬局は設置せられ種々の準備に着手したるが御大葬の日取は未だ確定せず、同局總裁には伏見の宮殿下副總裁には渡邊宮相任命されたり

●公電（七月卅日紐育）〈總領事館着〉

今三十日夜左の通り發布せらる

一、詔書を以て七月卅日大正元年と改めらる

二、明三十一日より五日間癈朝仰せ出さる癈朝中は囚人のフク役を免じ死刑及体刑の執行並に歌舞音曲を停止す

三、大喪に關する事務を掌裡せしむる爲め宮中に大喪使を置かれ勅令第壹號を以て大喪使官制を公布せらる

●公電（七月三十一日紐育着）

今回の大喪は一ヶ年にして之を三期に分ち第一期第二期は各五十日殘る日數を第三期とす大喪には皇族及臣民共に喪にふくす（明治四十二年六月十一日皇室フク喪令參照）

登極令　明治四十二年二月十一日公布

第一條　天皇踐祚の時は即ち掌典テフをして賢所に祭典を行はしめ且つ踐祚の旨を皇靈殿神殿に奉告せしむ

第二條　天皇踐祚の後は直に年號を改む

年號は樞密顧問に諮詢したる後之を勅定す

第三條　年號は詔書を以て之を公布す

第四條　即位の禮及大嘗祭を行ふ期日は宮内大臣國務各大臣の連署を以て之を定む

宮内省告示第十一号

明治四十四年六月十五日公布

第一條　喪フクは皇室令其他の命令に別段の定あるものを除くの外此規定の定むる所に依る

第二條　男子の喪フクはフク喪の種類及喪期の區分に從ひ左の制定に依る

第三條　フク裝の種類喪期の區分及喪章

通常禮フク（イブニングコート）

第一期、黒紗巾凡三寸左腕に纏ふ

通常フク（フロックコート）

第一期、黒紗巾凡三寸帽を卷く

第二及第三期は共に第一期に同じ

通常フクの帽子襟飾は黒色とし上衣下衣袴手套は第一期に限り黒色とす但鼠色の手袋を用ゆる事を得

皇室典範

第十條　天皇崩する時は皇嗣踐祚し祖宗の神器を承く

●注意　癈朝とは只　陛下の政務を御休止遊ばさるゝものにて諸官省の事務を休止せらるゝ意に非ず

●主上崩御と大統領タフト氏

主上崩ギョの悲報華府に達するやタフト氏は　皇大后陛下並　今上陛下に懇篤なる吊電を發し　兩御下よりは折返し御返電ありたり、尙タフト氏は去三十一日武官を從へ自ら大使館に至りて吊意を表し珍田大使の答訪ありしと、今タフト氏が崩ギョに就て語りし所を記すれば

予は此の悲報に接して衷心哀悼の情に堪へず、予は幸にも前後六回親しく　陛下に拜謁したるを以て友愛殊に深かく御性情に付ても熟知し居れるが　陛下は實に歴史上稀に見る所の英明なる君主に在まし維新以來諸致の改革、國運の發展に千古無比なる功業を奏し給へり殊に　陛下は極て精勵のた方にして重臣の任用に絶倫の技能を有し給ひ論功行賞一として誤なきを期し給へり、日本の近代を熟知せる者にして　へいかが全國民の眞の指導者に在ませしとを否定するものあらんや

●米國諸新聞紙　は筆を揃ねて哀悼の意を表し且　陛下のゴ功勳を賞讃したるが特に其重臣の任用に於て非凡の才能を有し給ひし事に就ては萬口一齊に賞讃の辭を放てり

●英國海軍の吊意　同國海軍省は全艦隊にハーフマストを掲げしめ吊意を表す

●總領事館の大多忙　ゴ大喪に付き吊意を表せんとて來訪する内外人引も切らず非常の多忙を極め居れるが同カン宛に書面にて哀悼の意を寄せ來りたる左記團体及日本人諸氏に對し一々返信し能はざるも右の趣は同カンより外務省へ進達する筈なり

プロビデンス在留日本人一同、紐育修道會、フロリダ大和村日本人一同、小林喜一、秦光重、佐藤重次郎、大橋秀三郎、角田幾多、佐々木善六、大嶋善之助、大矢喜兵、時枝之誠、廣瀬由助、荒川哲次郎、

●諸外人の吊電　英國總領事代理、露國總領ジ及華府露國大使カン外交官補、瑞典領ジ、丁抹總領ジ、アメリカンツレーデイグ會社々長モールス、スチーヴン諸氏は態ゞ當地總領ジカンを訪ふて吊意を表しゼコプシフ、ハミルトンホルト両氏は避暑地より電報を以て哀悼の意を述べたり

米國亞細亞協會のジョン、フオルド及ウエッブ氏等は同協會會員を代表し總領事カンを經て外務大臣に吊電を發したるが右は直ちに宮内省に傳達の上各新聞社につう告したる旨返電に接せり

●社告
今後廣告料並に購讀料等を銀行小切手又は郵便替爲にて御送附の節は受取人は英語にてK. Kai と御認め被下度尙弊社への書面は、ゼ、ジャパニース、タイムスに願上候

●謹告
小生儀今般子女教育の爲め妻子四人を率ゐ當地出發、丹波丸にて歸國致さすゝく候間此段知己諸君へ御通知申上候　敬具
サウスカロライナ、ビュフオト
大谷藤作

●日本協會 のリンゼー・ラッセル氏は同會を代表し珍田大使を經て吊辭を皇室並に全國民に致したるが同會にては近々大遙送式を爲す筈なりと

●日本倶樂部 よりは一宮氏セクレタリーの資格を以て吊電を發したり

●紐市日本人協會 は日英兩文を以て深厚なる哀悼の意を宮內省宛に打電したり

●在留同胞の遙送式

去月三十日の号外にて報じ置きたる如く在留同胞は御大葬の日取確定次第カチギーホール又は會館を入れ官民一致遙送シキを執行する筈にて沼野領事外有志諸氏は右準備に關し目下協議中なるが儀シキは神佛基三教の何れにも則らず單純にして且嚴肅なる在留同胞のみの遙送シキと爲す筈なれば在留同胞は左の件々を心得たる上時刻に遲れざる樣參會し謹慎哀悼の意を表すべしとのことなり、尚ほプログラムは決定次第兩新聞紙上にて發表すべく委員の撰定其他の準備は一宮鈴太郎氏主として考案中なり

●在留者心得

一、喪章、半旗は各會社又は團体に於て其長たるもの其會社或は團体を代表して之を行ふ事、但し半旗は旗竿の設備ある家に限る

一、尚喪章を附けざる者と雖も服地ネキタイ靴の色等黑色若くは夫れに近き無地ものを用ゐシャツは成るべく白色を用ゆる事

一、婦人も同樣成るべく質素を旨としフク地其他に黑色又は白色を用ゆる事

一、團体代表者及び世話人は必す黑きバンドを帶用する事

●年號改正に付て注意 七月卅日詔書を以て太正元年と改めらるゝ旨發布ありたるに付總て領事館への願書届書等凡て右年号に依べし

●本田博士の吊辭

目下ハートフォドに療養中なる氏は珍田大使を經て左の吊辭を上つれり

明治天皇陛下の微臣從五位本田增次郎帝都を辭してより既に七歳を重ね此間筆舌誠忠を罄めて天皇皇后兩陛下の盛德を傳へ、日本國民が其憲政の下に亨樂せる進步、福祉の狀を世界に知らしむることを光榮とせり今次天皇陛下大患に惱ませ給ふの飛報に接するも微臣萬里の異域にありて自ら宮闕に趨き切々の衷情を奏する事を得ず匆々下陛御の電音を聞きて孤兒慈親に泣くの感に堪ねず、遙かに東天を仰ぎて皇后陛下の悲痛に滿腔の涕を灑ぎ奉る

右の旨大使閣下より宮內大臣へ傳達せらるゝを得ば至幸に奉存候 謹具

明治四十五年七月廿九日

紐育 本田增次郎

特命全權大使子爵珍田捨己閣下

●高峰博士 は監督ハリス、新渡戸の兩博士をメーリウォルドの別業に招待し廿七日より廿九日迄饗應したり、因にハリス監督は目下華府にあり

●第八國万國應用化學會 華府並當地に於て來九月開催さる可き同會の日本人出席者は既報如く左の諸氏と決せり

文部省、高峰博士、大阪工大教授工學博士江守襄太郎、關東都督府、上島五一郎氏等にて農商務省よりは當時獨逸に留學中なる農事試驗所技師農學博士大工原銀太郎氏

●竹越與三郎氏 は八月一日横濱出帆の地洋丸にて歐米漫遊の途に上り太平洋沿岸に二ヶ月を費す筈、西園寺侯は氏の此行を大に贊成せし由

●河上清氏 は新著「米國に於ける日本人問題」の材料を集むる爲め九月中旬布哇に渡航し歸途大西洋沿岸テキサス及キャナダ地方を視察し十二月初旬歸着の筈なり

●東ヨウッウ報誌の八月號 は渾沌として其形勢を分つに由なき支那の現狀及將來に對する名流大家の意見を集めたるものにて桑港クロニクル紙主筆ヤング氏の所論の如きは頗る警拔のものなり、尚大隈伯のルーズベルト評あり全體に於て本号は特種の光彩を放てるが如く見ゆ

●詔勅を發せらる

三十一日東亨電報に依れば 今上天皇陛下は同日詔勅を發し給ひ、國政の執行は憲法に則り皇祖皇宗の鑒照の下に先帝の宏謨に隨ふべき旨宣ひたりと尚 陛下には御大葬の終る迄青山御所に御滯在の筈にて先帝の御靈柩は京都丸山の御陵に御埋葬と決したる由、一般の商業は一時休止の姿なり[illegible]に復したりと

●法學博士菊地武夫氏 は腸患を西大久保の自邸にて靜養中去月の處六日逝去したるが宮中より特に昇敍の御沙汰ありたり

●海軍大將新任 海軍中將男爵出羽重遠氏は去月九日海軍大將に任ぜらる

●半旗に就て 御大喪中在留同胞が吊意を表する爲め半旗を掲ぐるに付某氏が一般の注意として語りたる所を記せんに、國旗の使用法に付ては各國の規定習慣非常に錯雜し居りて其解釋判斷に苦む所なるが、當米國に於て在留外人が本國の國旗を掲ぐる場合は槪して祝意を表する時に限り多くは本國旗と米國旗を交叉する習慣のやうに見受くるも今回の事の如きは空前の出來事にして如何なる樣式に依るを可とするや甚だ不明なるのみならず、半旗を掲げずとも他にテフ意を表する方法もある事故本國政府より何分のツウ達あるまで差控ゆる方然るべし云々、因に他の某氏は日本國キのみを掲ぐるも差支なからんと云へり、大方の意見を聞き度し

●恐日病決議案の過通

八月二日の米國上院はロッヂ氏の提出にかゝる恐日病決議案をツウ過せり曰く

米大陸の土地及港灣にして他國政府と關係ある團體若くは會社の租借する所となり而して其租借地の位置が該政府の政略上の目的を實行するに足るべき海陸軍根據地として北米合衆國の安固を危險ならしめ又は變ツウを妨ぐる恐れある場合は米國政府は輕々しく之を看過せざるべし、右決議す

此決議案の由來は彼のマグダレナ灣問題に胚胎するものにして其目的が日本をキ嚇せるものなることは云ふ迄もなきが、反對議員の一人ストーンが質問を發して「若し日本が米國の非利賓領有を以て同國の安固を危險ならしむ」と爲さば如何と言ひたるも恐日病議員共の肺肝を抉りたるものなり、同案は五十一對四即ち殆んど滿場一致を以て通過したりと

●共濟會記事

一、仙石貢氏は去月廿四日金五拾弗を本會に寄附せられたり、氏は高知縣の人前代議士にして嘗て永らく九鐵社長の職にあり目下は小石木川水電の社長なり、氏の寄金に付ては沼野領事の斡旋不尠會員諸君は本會に厚意を寄せられたる人々の芳名を記憶せられんことを希望す

一、八月一日役員會を開き出席者十名左の件々を議決す

一、御大葬遙送式に關しては沼野領事の發意に同じ官民一致の嚴肅なる遙送式を行ふ事

一、從來高見北村兩氏より月々特別に寄附せられし拾弗は兩氏の希望により本會々員の讀書室設備に宛つる事

一、秋季大會の淸遊會は大喪に付ゴ遠慮申上げ、手廣の場所を借入れて會員全体の懇親會を催す事

一、規則改正は委員三名を撰びて之に委托する事とし、會長の指名により天野、中原、小春の二氏擔任のことなる

委細は近日發行すべき會報にあり

本會々員にして住所不明の諸君有之事務取使ひ上不便勘からざるに付本會より何等書信に接せざる諸君は現住所を左記の事務所まで御報知ありたし、百十一レキシントン、アベニュ

●讀者諸君へ

本社印刷所にて發行し居る支那字新聞は從來四頁一週一回發行なりしを八頁一週二回としたる爲め本紙の印刷時間と衝突することあり爲に本シは往々にして土曜日發送となり月曜日ならざれば讀者の手に達せざることあり、不忠實の罪謝するに辭なし、近々新活字の到着次第諸事誤りなき樣注意すべければ暫時の間御辛抱を希ふ

●孫を見たさに亞米利加より

去月十五日横濱へ入港したチャイナ丸に[illegible]にも美しい一米國の老婦人を乗せて居つた婦人の名はグラス、バッグと云つて[illegible]久[illegible]代[illegible]王の令息善太郎の亡妻ルイス夫人の母親である

▲聞き、清そ、善太郎氏が渡米廿年の後學成りて故國に[illegible]を[illegible]るに際し多年の[illegible]なる[illegible]辯護士バッグ氏の[illegible]ルイスを娶り去る四十四年両々相携へて目出度[illegible]朝した以來夫婦相和し昨年六月には一子清をさへ設けて一家は歡喜に充たされたも束の間ルイス夫人は産後の日立惡しく[illegible]親が手厚き介抱も其効なく月見草咲く七月の或夕「清を、清を、」と言ひ續けつゝ遂に神の國へ旅立ちした其後は善太郎氏は言ふも更なり一家の人々も母なき子を思へば一入不憫に思ひて清、清、と手から手に渡る程の寵愛がり方に清は風一つひかずクリ〳〵と生立ち早くも茲に誕生を迎へるに至つた

▲バ家の悲しみ　却説も紐育なるバッグ家では唯一人の娘を遠く嫁がして後両親も心安く月日を送つて居る折へ思ひがけなき愛孃の訃音にバ家は[illegible]倒せん計りであつた殊に母なるグラス夫人の悲嘆は餘所の見る目も哀れであつた併し諦めのよい夫人は暫くの後には再び愛孃の名を口にしなかつたが其遺孤なる清の上を思ふ心は時の經つに連れ日本から送つて遣る寫眞を見るにつけ日々に戀しくなつて遂に人々の止めるも聞かず只一人八重の潮路を遙々と孫の顔を見に行つたのであつた

▲血統は爭はれず　最初の内は清は見知らぬ外國の婆さんを見ると直ぐ泣き出して[illegible]をも容かすべき愛情と血統とは爭はれず間もなく此の婆さんに[illegible]なくてはならぬ様になつたことが第一夫人は清を膝下に抱きつゝ向ふ一ヶ年間家に滯在せしめる[illegible]見れば[illegible]に何か[illegible]あるまい[illegible]の[illegible]あれ[illegible]れ[illegible]の四[illegible]には前[illegible]御[illegible]に行きませうね[illegible]

●馬鹿にならぬ鼠

大阪市役所では先年ペスト發生以來一頭五錢宛に買て居た鼠を七月一日から三錢に値下した此値下の爲に一日の總費百圓一ヶ年に積ると約四萬圓の儉約が出來ると聞いては鼠の買上も馬鹿にならぬと驚くだらう二三年來ペストも終息した今日市民の多くは鼠買上のことすら忘れて居るが昨年でさへ市役所で鼠を買上た數は百廿三万百八十五頭といふ丁度大阪市の人口と同じだ昨今では一日平均四五千頭を缺かしたとが無いといふのでそれを二錢宛安く買上げると忽ち[illegible]圓の剩餘が出る譯である一体そんなに澤山な[illegible]か何うして捕れるのだらう諸所の家で捕れたのを附近の巡査派出所へ勝手に持て行くのが積り積てソンナ數になるのかと云ふに決してソウでは無く大部分は之を商賣にして居る者が捕つて來るのだ然らばどうして鼠を捕るかといふに大抵は鼠の居りそうな泥臭い獸に嗅せかへる様なドス黒い水の流れてゐる塲所を十數ケ所豫め晝の中に見附けて置き夜になつてから彼等獨特秘密の工夫を凝して捕鼠器を仕掛け置き夜のウス〳〵明けに青錆の浮いた泥だらけの石油の空鑵に荒縄を括りつけたのを肩に引掛け餌竿を持て行き[illegible]へて置いた捕鼠器に鼠がかゝつて居ると其れを件の鑵に投込んで行くのである斯くして捕れた家鼠を交番所に賣りに來るのだが中にはこの鼠が澤山捕れなくなると野外に出懸けて野鼠を捕つて來る者もある併しそれは交番所の巡査が見分けて滅多に買上げるやうな不覺はせぬ此の鼠は春から夏の初めにかけて一番澤山捕れるので一日多い時は六七千頭も捕れる其時には中々いゝ稼をするそ[illegible]て之等の鼠は府の衛生課へ石油の鑵に入れて持つて行つて[illegible]を五ッ六ッ[illegible]それから[illegible]に持込んで火葬にするのであるが一番市内で[illegible]な鼠は築港方面の野鼠であるそれは外國船などが築港に着くと[illegible]かに上陸して[illegible]港の野原に棲むで子を生むからであるといふ

[illegible]

[illegible]士某が[illegible]馬に[illegible]出したかの様に云たが彼は[illegible]走したのではなくて雄々敷出征したのだ成功の暁に就て居る[illegible]胞のことを兎や角饒て汝自身の人物の小さいことを自白するよりは大に奮闘して汝も彼の様に自動車の持主になつて見せよ（嗚[illegible]性）●南京街通ひの諸君よ故國では米價騰貴の爲め小學生徒の登校し得ない者さへあると云ふ悲境に在ることをご存じか君等が馬鹿票屋の親爺や賣春婦に奉納する金で幾人の在郷貧民を救ふことが出來ると思ひ給ふや（憤慨生）●由良之助殿とやら何處のご人かは存せぬがご諌言の段有難く存ずる拙者元來秩序[illegible]ふて學を就したるにはご座らねばスピーカースプラットノオムに立ちヂーオーヒーガどうのブルム[illegible]がどうのと論鋒を[illegible]するが如き[illegible]を有せずさりとてホ[illegible]連や辻君共を相手取り[illegible]試しを[illegible]したとて味無きものなれば茲の處は先一考要するので機の[illegible]す迄待つことゝ致そう（ゼームス）●某會に止宿する鳴山といふ先生は哲學熱心で儒佛二教は勿論東西古今の七六ケ敷書物を讀破して日常の行動は恰度仙人のやうじやが近頃[illegible]葉を味ひグリ[illegible]キ藝術の趣に耽る處から人體美に憧憬かれたか久米仙を學び[illegible]脱ずしてセガ[illegible]が病気になつたとは讀書万卷君遂に惚れり矣（[illegible]學者）●日本から下女を連れて來て奴隷同様にコキ使ひ日本人には一切會はせず給料を拂はず丸で罪人のあつかいをして居る西洋人數多あり契約勞働は法律の禁ずる所にて又斯る待遇は人道上よりするも甚だ不都合なり新聞記者は盲目か[illegible]年[illegible]共濟會の財政は幹事が[illegible]でなかつた爲に[illegible]々になつたのである今度の[illegible]事君確かりやらんと駄目だよ尤も新任の役員は[illegible]者[illegible]であるし新幹事も存外馬鹿正直じやからうまく行くと思ふ（一[illegible]心なる一會員）會計が一切金錢の出入を司つて居ますから安心せられ[illegible]事●[illegible]紐育にも[illegible]本婦人を見受けるやうになつた[illegible]者先生の[illegible]を呼べでなくて[illegible]を[illegible]てになつて行く●甲　君は實に[illegible]病に[illegible]家、[illegible]込んだ[illegible]乙　何[illegible]其代[illegible]（一畫黒）

Volume 2

The Japanese Times.

SATURDAY Aug. 10th, 1912

紐育新報

第五拾九號

Published every Saturday by The Japanese Times & Co.

時論

寸鐵

日本移民排斥案の通過

New York Mortgage, Realties Company

Singer Building

NEW YORK

紐育土地建物株式會社

紐育市内外の地所

The ... Singer Building, New York

新治療法開始

村瀬九郎

診察時間

DAVIS & WEISS

THE LEADING MERCHANT TAILOR

大洋服店

デビス、ワイス商會

印刷物注文

紐育新報社

TAKEDA, KITAMURA CO.

192 Park Row, New York City

Tel. 121 Worth

CHICAGO BRANCH:

2917 Prairie Ave., Chicago, Ill.

Tel. 3383 Douglas

竹田北村商會

年中無休

日本食料品雜貨

書籍雜誌類新荷着

高等御旅館

朝日

New York

Tel. 2793 Gramercy

懐石御料理

日本球突場

御製の數々

公報

東京電報

▲御大葬の日取定まる

所謂露國の讓步

一同謹告

以上　紐育日本人一同謹告

●葬儀　舞式

九月十二日夜

●共濟會記事

●讀者諸君へ

紐育生命保險會社

日本代理人　早川保次郎

力談判の結果

同等の保險率

全然

謹告

●郵便物發着表

●布哇在留同胞の半面

(六)新聞の社會(下)

▲…小新聞…は白人…ホノルヽは日本人の…の新聞が…殖民新聞を除くの外…だけは…を守るとになつた。新聞…日本の…が五拾弗とは餘りに…

…年の若い…れ春さんだ…子から本願の福流…報や港南新報あたりの相場は先づ…して朝下駄の…カラーと鍊り歩行…ット五拾弗か高くて百弗位の處で…く…は…なら…では…見られ…ろう。…收策が甘く其…に…

…の…である

▲…は…の…つて…を…から…に葬られた。

…ある…價値…らい…は、甚…ものである。

▲…事情も書けば何程でも材料は…あるが、大約これ位の處で…先筆を收めることにする。(をはり)

●憐れむべき學童の手内職

No. 69
Volume 2

The Japanese Times.

SATURDAY
Aug. 17th, 1912

紐育新報

第六拾九號

島國的思想とは何ぞや

吾人の東京日本人論解能か

東京電報

御大葬日確定

日露協約と諸家の意見

九月十二日夜

●桑港だより

●共濟會事

力試合の結果

▲▲謹告▼▼

組育生命保險會社

早川保次郎

●郵便物發着表

憐れむべき少年の手内職（續き）

No. 61
Volume 2

The Japanese Times.

SATURDAY
Aug. 24th 1912

紐育新報

第六拾壹號

明治と大正

一 ［illegible］ 一

[illegible]

●寸鐵●

[illegible]

●吾人の巣と日本

人を理解し能はず（三）

……一（主宰者）か故に……日本人を……

●ブース大將逝く

●東京電報

●皇后陛下に御着

●山縣公爵に御……

●民政府の動

●……の國際……

●……



拜式順序

九月十二日夜午后九時

共濟會記事

日本人職業周旋所

谷故之助



●色々甲上候

○工女の生活

〈物　語　カ　ゴ〉

No. 176
Volume 1

The Japanese Times.

SATURDAY
Aug. 31st, 1912

紐育新報

第六拾弐號

雞鳴語

寸鐵

●悲しき御輿入式

[illegible]

……八十二年……深山……三つの……日本人は外国人の恩……以て成り二千五百余年……

●吾人は果して日本人を解し能ふや（三）

[illegible]

……日本人の性格……所謂「心理的事実」の探究に踏入りたる……国民の……其他の心理的変化は予の大いに……注意すべき点なりき（未完）

●東京電信

●臨時議會開會

臨時議會は愈々本月廿一日午前……を以て開會されたり

●……長選挙

……政友會の大岡育造……國民黨の……

●……議會開院式

……議會開院式は……十時を以て擧行されたり……大正天皇陛下には……勅語を……

●御料御出門

……八時……青山……出御……

●新開業廣告

……新たに……料理……開業致し……一人前　廿五仙……

常盤

●新開業玉突場

[illegible]

佐久間

●日本人職業周旋所

……營業の方針は……奉仕……

……寄　政之助

……市……六街八四四番
電話ゴフイアー七七〇九

◯帝國總領事館

[illegible]

◯新活字注文

……活字百万ケを……紙面の擴張を行ひ以て讀者各位の愛顧に……

●日本人大工職

……日本人大工職……

●前金切

……前金切……新報社

新〇〇〇〇〇〇〇〇〇築

●●高等旅館

●●御席料理

落〇〇〇〇〇〇成

東洋倶樂部

電話……三六一九

Chinese Delmonico
24 Pell St N. Y. C.

支那料理

萬雲里酒樓

御下宿

中西庄

●……一弗の月掛……

四ロットの土地

Wm. Moffitt Co.

……Ave. Cor. 34 St.

●拝式

九月十二日夜午後九時

●移轉廣告

若松

●共濟會記事

●郵便物發着表



●四十一年 夢の又夢

No. 61 Volume 3

The Japanese Times.

SATURDAY Sept. 16, 1912

紐育新報

號三拾六第

物價騰貴の問題

[illegible]

大行天皇御製（一）

[illegible]

寸鐵

[illegible]

●吾人は果して日本人と解し能ふか（四）

「ヂョージ・ケナン氏所説」

[illegible]

●新開業廣告

[illegible]

常盤

●新開業玉突場

佐久間

●雜貨品類着荷
紺キモノ、マダリ、コート
其他雜貨品大勉強販賣致候
Kyoto Mfg And Trading Co.
Broadway, New York City

○葬人

在紐育帝國總領事館

新築落成

●高等旅館
●會席料理

東洋倶樂部

●新活字注文●
日本へ向け活字百万ケを注文
紙面の擴張を行ひ以て讀者各位の愛顧に

●前金切れの讀者へ

紐育新報社

日本人大工職

社告

Chinese Delmonico
24 Pell St. N.Y.C.
支那料理
萬雲里酒樓

御下宿　中西庄

●西ロツトの土地

Wm. Mohle Co.



THE TAMAI CO.
●夏場向

多治見商會

S. STRAUSS
WINE MERCHANT
酒問屋
ストラウス酒店

ROSENBACH
○大安賣
貳弗五十仙
貳弗八十五仙
雜貨店

奉拜式

九月十二日夜午后九時

[illegible]

祕密廣告

[illegible]

若松

[illegible]

征韓論

新舊思想

文治派と武斷

大元帥都督兼参議 西郷隆盛

閣議と一月十四日の運命

二種の主義者

民選議院開設の建白

豆腐屋

大平甲子太郎

● 御牛

The Japanese Times.

SATURDAY

紐育新報

第六拾四號

金の鐵關係
證の急務

●両戦役海軍費

●大葬各國特派使東京着

●孫逸仙の支那開發策

●列國の名代に就て思出の記

●米國新大使日本着

●日本人大葬式 拜式

乃木大將と令夫人の殉死

[illegible]

●第八回同化學大會

[illegible]

●郵便物發着表

[illegible]

●業務大擴張

[illegible]

山査

蓮花

No. 65
Volume 2

The Japanese Times.

SATURDAY
Sept. 21st, 1912

紐育新報

第六拾五號

嗚呼乃木大將

寸鐵

論説

嗚呼乃木大將

●東京電報（十三日發）

明治天皇陛下御大葬式

●壯大なる御葬列

●御祭

●乃木大將殉死の眞相

●兩陛下御先著

●ずん非常時

●郵便物發着表

紐育新報

●移轉廣告

若松

日本人職業紹介所

日本雜貨
藥 リンチル類
森村ブラザー
Morimura Bros.
546-8 Broadway, N. Y. City

●診察時間
中村正一

東洋通報社

法律事務所

佐々洋服店

●業務大擴張

色々の事件

No. 66
Volume 2

The Japanese Times.

SATURDAY

紐育新報

第六拾六號

政治道德とルーズベルト氏

●大葬終る

沿道各地

誠意

悲雨蕭々

一層悲痛

●乃木大将の遺

乃木家の断絶

将軍の希望

●七十萬圓の手形偽造事件

●郵便物發着表

御大葬奉悼式収支決算報告

ヤンキー
看の都

No. 67
Volume 1

The Japanese Times.

SATURDAY
Oct. 5th, 1917

紐育新報

第六拾七號

竹越代議士演説

[illegible]

帝劇の要素

只人の温かき ハート

命令以後の行李

可成少道

路上の往来妨

●東京特電

○暴風雨の害報

●大正 政府の内容

●支那人の政治運動

●郵便物發着表

●謹告

ヤンキー 君の都

The Japanese Times.

SATURDAY

紐育新報

第六拾八號

百尺竿頭更に一歩を進めよ

[illegible]

●皇太子御敍任

「皇太子殿下は大正六年十月……　……

[illegible]

●田岡嶺雲死去

[illegible]

●大阪商船と福州

[illegible]

●海軍人事

[illegible]

●近東の擾亂

[illegible]

入社之辭

[illegible]

Number ... of the ... New York ... 1912.

●共済會の秋季大會

十一月二日

●郵便物發着表

●業務大擴張

佐々洋服店

●竹越代議士の演説（承前）

[illegible]

秘密協約

多分成立したものであらうと臆測す

[illegible]

其滅亡は今や殆ど旦夕に迫って居る

[illegible]

先帝陛下の御下問

[illegible]

生の日本　外国

[illegible]

露国大軍に一蹴し悉く全滅

[illegible]

The Japanese Times.

SATURDAY

紐育新報

第六拾九號

● 前代議士……の演説

[illegible]

北滿洲及内……は露國、南滿洲以外……は日本の勢力範圍

[illegible]

● 診察時間

[illegible]

●カ氏銃撃せらる

乃木將軍の高き行動

●乃木大將の

遺言狀

●共濟會の秋季大會

十一月二日

●寫紙の寂寥

●郵便物發着表

●業務大擴張

●竹越代議士の演説

一米人を見て米人全体を判断するような謬見を抱かず

[illegible]

No. 76
Volume 2

The Japanese Times.

SATURDAY
Oct. [illegible] 1917

紐育新報

第七拾號

バルカン戰爭と列國

[illegible]

寸録

[illegible]

バルカン戰爭

共濟會の秋期大親會

來る十一月三日午后七時東十……番……俱樂部に於て……

……は午后七時……

謹告

菊池利夫

●外交員入用

寄書

……其の性質と組織……時は……日本の働く……

今時諸直な者は 獣で馬許りじや

No. [illegible]
Volume 2

The Japanese Times

SATURDAY
[illegible]

紐育新報

第七十一號
[illegible]

The Japanese Times [illegible]

投節を奸さんや

[illegible]

寸鐵

[illegible]

●共濟會の秋期大親會

[illegible]

●バルカン戰爭

[illegible]

●副大統領シャーマンの訃

[illegible]

●教育の新問題

[illegible]

●政界の鬩ぎ

[illegible]

●共濟會秋期大親睦會

●新臣物發賣廣告

大洋服店

一ヶ月間大割引

HAMAN. COHN
Fine Tailoring, Gent's Furnishing
43 Sands St. Near Bridge Entrance
Brooklyn Branch, 112 Cramford St Portsmouth, Va.

日本人職業周旋所

日本雑貨
リンネル類
森村ブラザース
Morimura Bros.
546 Broadway, N. Y. City

●診察時間

中村正一

告

友會

●懐石御料理●

朝日

61 W. 28th St.
New York
Tel. 2295 Greeley

●高等御旅館●

毎晩お誘ひ
營業午后十時

東洋通報社

佐々洋服店
SASSA 66 W. 35 th St.

●婦女入用

Photograph

一月間

諸點
下宿
料理
飯塚

THE YOKOHAMA SPECIE BANK, Ltd.
55 Wall St., N. Y. City

横濱正金銀行 紐育出張所

鶴井久

丸山旅下宿

47 W. 34th St.
N. Y. City

●診察●

小春鎌郎



倉本の刻み煙草

New York City

●銘茶●

●武藏野●

●老の友●

見本無料にて差上申べく候

片桐兄弟商會

法律事務所

●移轉●擴張●

東京館

●色々中上候

●南の併合を望む

投書欄

The Japanese Times.

紐育新報

第七拾二號

[illegible]

上院の孤城落日

民主黨の大勝

渡米者抑留問題

●市況近信

同 澁 澁 設



共進會秋季大會に

No 74
Vol. 2

The Japanese Times.

SATURDAY
Nov. 23d 1912

紐育新報

第七拾[illegible]號
壹千九百十二年
(每週土曜日發行)
Published every Saturday
by The Japanese Times Co.
Park Row Building 13-21 Park Row,
N.Y. City Tel. Cortlandt 2953
5c. per copy, $2.00 per annum.
Entered as second class matter June 4
1911 at the Post Office at New York,
N.Y., under act of March 3d. 1879
KENICHI KAI, Editor &
Publishing Manager

社告

豫て注文し置きたる**新活字百萬個**は十月十三日横濱を出帆したる汽船にあり去る十一月三日インヴォイスを入手したれば遅くとも本月下旬には總ての手續準備を了へて使用することとなる可し。本社は新活字の到着と共に

●**紙面の擴張**を行ひ從來の四頁廿八欄を**全紙八頁六十四段摺**に改め行數も亦之に準じて増加し、新たに

●**英文欄を新設**すべし　本欄新設の目的は、陳套平凡なる日米親善を説かんとするに非ずして、**日米問題に關し官臭**を脱したる東帝國民の默かざる意見を代表し、依りて以て東西兩洋文明の融和鍛錬を圖り、同時に吾民族の大陸的發展と其世界的思想の涵養に資せんとするに在り。本欄の新設と共に本社は更に

●**シカゴ欄を設け**て中西部に於ける在留同胞の便宜を謀り東西相呼應して在米同胞の交驩提携に益する所あらしめんとす。本欄の主任者はシカゴ青年會の[illegible]本[illegible]仙君なれば、廣告、新年廣告、購讀等の件に付ては委細同君又は本社に申込まれ度し

●**業務擴張と移轉**　本社は業務の擴張と同時に移轉の必要を感じ今回**第六街三百廿八番に家屋を借り入れたり**。依て**拾二月五日以後**は同所にいて一切の事務を處理す可く、殊に

●**印刷部**には熟練なる二名の米人と數名の日本人あり、大小各種の**新機械と新に買入れたる日英兩種の活字**並に附屬品等凡て完全なるを以て一切の印刷物は精巧美麗を極め顧客に滿足を與ふべし。新年用其他の印刷物は可成大至急に申込を請ふ

記

●**工場設備と事休止**　移轉及新工場の設備に時日を要するが故に本社は[illegible]週間紙面の記事を休止し、廣告依頼者に對する義務を全ふせんが爲廣告は引續き印刷して毎週讀者に配附す

●**新年號の異彩**　新活字を使用する新年號は鮮明美麗の盛裝を以て讀者諸君に見ゆ可く、且つ約**壹萬枚を増刊**して内外各要地に配附する筈なれば**廣告の効能**が一層顯著なるは勿論なり、新年號の記事は日英兩文共内外諸名家の高論滋密を紹介するの外、[illegible]牛、鬼純、遊客、油谷、龍泉、洋[illegible]、多郎、悵軒、背天、五峯、緑鵝、佃月、俗佛、亞米坊、亞米平等の社中社友全力を傾注して万丈の光焔を吐き、或は各自の錦心繡腸を披瀝して、人生の表裏兩面に炬眼の批評を試むべきを以て、全紙面は内容外觀共に光彩陸離として恰も千紫万紅の朝霞に對するの觀あるべし

●**注意**　事務所及工場の整理は社中總掛りの大車輪を以て終了すべければ、新年號及各種印刷物は大至急[illegible]込あり度し
儲。。。。らずして業務を擴張し、而かも鋭意[illegible]、以て在米同胞の[illegible]ける機關たり將た[illegible]備の[illegible]者たらんとする本紙の赤心を諒とする人は、必ずや**紐育新報を讀む可し**

新[illegible]新報

工場設備のため二週間記事を中止する等なりし所郵便局の命令に依り新活字の整理する迄毎號二段宛の記事を掲載する事としたり

●媾和談判に取掛る　連戰連勝の餘威を以て一擧直ちに土京を陷入れんするの概ありし聯合諸國も土國の要求拒絶、列國の仲裁、將卒の疲勞等種々なる事情ありて遂に和意に傾きたりと見へ兩交戰國は既に媾和大使を任命して其の談判に着手せしむるに至り、チャタルジャ要塞に於て激戰中なりし兩軍も休戰の姿にありと此の談判の結果奈何は今より豫言し難きも土國の領土が著しく減削せられ、多年苛政の下に苦しみ居たりし基督教が始めて自由の民となり、聯合諸國は各少許の領土を得て列强の命令さばきに服從する事となるは蓋し疑ひなき所ならん、セルビヤのアドリヤチッ海に港灣を得んとする野心と其の後援者たる露國及之に反對する墺國の態度は結局歐洲全體の大戰亂を惹起すべしと頗る悲觀的の報導を爲す者ありしも是等は重もに歐米に於ける投機者流の捏造電報にして信を置くに足らず列强の態度は何れも平和を主として仲裁談判に努力しつゝあるものゝ如し

●「ゼービー、モルガン」氏の蒐集に係る美術品展覽會、同氏蒐集に係る美術品數の大なるは世の既に知る所にして實に五千萬弗の價値を有す頃日紐育市會計局は「メトロポリタン」博物館内に此の珍品を陳列し以て公衆に示さんがため、博物館南館に增設を加へんがため七十五萬弗の支出を議決せり然れども此費額は單に南館外廓のみを建設するに足る者にして實に建築竣工は殆んど一ヶ年を要するとの事なり

●日本協會の日本支那觀光團、日本協會は來年三月十七日紐育を發し桑港に出で布哇横濱東京日光箱根名古屋伊勢神宮京都大坂宮嶋馬關釜山京城を經て支那に入り大連天津北京漢口上海を通過し再び長崎に歸り海路神戸横濱を經て桑港に歸着する三ヶ月間の觀光團を組織せり

●羅府女巡査の採用　小型の冑き帽子に同じ色のスートを身に纏ひ手に少さな嚢を提げたる婦人桑港警察署り來り羅府より逃走せる三名の婦人を受取るべきを請求せり探偵長は羅府警察官「シャットー」氏に引渡すべき命令を受け居るの理由にて拒絶せしに豈に計らんや此婦人が其「シャットー」夫人なりとの事にて直ちに婦人を引渡せり羅府には目下三[illegible]ふ之れ世界に於ける婦人巡査の嚆矢なるべし

●山田氏の優勝位を占む　世界撞球界のチャンピオンの競技に參加して天性の妙技を振ひつゝありし麒麟兒山田浩次氏は去る二十日の最終競技に於て斯界の雄モーニングスターを倒しホッフ、スロソンに次ぐ第二位を獲得したり、氏獨特の長所は如何なる强敵と闘ふも競技の態度冷靜にして敢て焦らざるに在り殊に立て球の手腕に至りては其技殆んど神に入りて何人も企及し難く左手を以てキューを揮ふも其効力右手を以てすると寸分の違いなき事は内外人の等しく驚嘆して措かざる所なりスロソン氏の談によれば爰數年の練習を積まば山田氏は優に世界のチャムピオンたり得べしと、因に今回の競技に於てチャムピオンホップを打負かしたるは獨り山田氏のみなり

●正金銀行の預金利子引上　は本月廿六日より實施す委細は廣告を見よ

●河嶋天涯、林鶴山兩君　新年號には一面社告に列擧したる社中社友の外右兩君も得意の麗筆を揮ふ可し

●蒙古王の軟化　長春蒙古王會議は全く意想外にて蒙古側出席者は支那の御馳走政略にて巧に懷柔され民國に對する主張の如き不得要領に終るものゝ如し然れども東蒙古の烏泰王及び唐倫佛は盛に兵を集めて反旗を飜へしつゝあり

●岡侍醫頭の免職　世間の評判兎角目出度からざりし岡玄卿氏は今回免の字となり西郷吉義氏侍醫頭事務取扱を命ぜられたり

●外交官異動　林伊國大使は墺國大使に轉任し伊集院清國公使は伊國大使に榮轉し目下支那視察中なる山座參事官出で支那公使となり秋月墺國大使は待命となるあとに確定し來る十一月下旬を以て發表さるべしと

●昆虫局新設　今回農商務省にては昆虫局を新設し害虫豫防および驅除法に關し特別の調査を遂ぐと云ふ

●本邦最古參の在留外人　神戸元居留地明石町分署の二階に住居する「ベルマン、トロヂッヒ」は千八百五十九年伊藤公兵庫縣權令たりし時年齡二十七才にて來朝し直ちに居留地警察長となり後今に至る迄多數の外人を世話せしより居留地中之を知らざる者なしと

新活字百萬個は去る十一月二十七日本社に到着したり

SPECIAL NOTICE.

TO THE PUBLIC

[illegible]

THE ESTABLISHMENT OF ENGLISH COLUMNS.

... to plan this new department for our American readers ... an opinion as a ... between America and Japan ... we are alert, but to the real relations between America and Japan, as well as the Far East ... with most realistic consideration ... are not imposed by such, a ... As people ...

THE INSERTION OF CHICAGO NEWS.

... have the genuine po... no government sincere ...

THE MOVING OF THE EDITORS' AND BUSINESS DEPARTMENT.

THE EXTENSION OF THE ... DEPARTMENT.

... and types, which ... perfection in printing.

THE ARRANGEMENT OF THE ... AND THE DISCONTINUATION OF THE NEWS ON THE PAPER.

It is safe to say that by the ... the office it will be a long time ... everything is in good working order. For this reason we have been compelled to discontinue the news on the paper for three weeks from November 1st, except that of ... advertisements. Nevertheless, we ... great responsibility to ... who have put their contracts with us. For the sake of this agreement we shall not ... to distribute the special edition of advertisements and other important matters should the occasion arise.

THE SPECIAL ISSUE FOR THE NEW YEAR.

The New Year's special edition we are publishing with several ... sheets added, and distributing among ... Japanese as well as the American people to the number of about twenty thousand. It will go to all the principal cities in the world and the Japanese residing in this country. Therefore the advertisements on this special issue will bring good results and with it great success to everyone.



